

特集

教育学者 清水一彦さんと考える 日本の教育 (3)

目次

- グラビア …… 01
- 特集 教育学者 清水一彦さんと考える 日本の教育 (3)
現代社会はどのような教師を求めているのか …… 02 ~ 09
- 第14回顕彰「茗溪会賞」候補者の推薦依頼について …… 09
- 特別寄稿 万人の学習権の生涯にわたる全面保障を未来永劫に！
桑原敏明 …… 10
- 平成26年度 茗溪会賞（大学院修了者）受賞者・活動テーマ …… 11
- 平成26年度 茗溪会賞（芸術部門）受賞者・作品名 …… 11
- 茗溪会公開講座「茶の湯にみる日本の生活文化」熊倉功夫 …… 12 ~ 15
- 平成27年度 一般社団法人茗溪会 公益・共益・広報等 年間行事計画(案) …… 16
- 平成27年度 定時総会開催のご案内／代議員一覧 …… 17
- 茗溪・東西南北 …… 18
- 筑波大学は今 …… 19
- 茗溪フェロー 協力者ご芳名 …… 20
- 誌上交流広告 掲載ご協力をお願い／茗溪フェロー ご協力をお願い …… 21
- 茗溪学園だより …… 22
- 桐の葉のつどい／第30回教職受験対策研修会から …… 23
- 追悼録／著書紹介 …… 24
- 広報／編集後記 …… 25

茗溪



春

2015

平成27年

no.1085



ユ
Juchheim
SEIT 1909

日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユーハイム®

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間: 平日(月~金) 9:30~17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことのすべて

SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビル3F
TEL.03-5784-8831 (代表) FAX.03-5784-8832

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。

2015年4月 新学科開設

看護学部 看護学科
工学部 臨床工学科



神奈川工科大学

KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030

TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

理事長 中部 謙一郎

理事 河野 隆二(S47農)

顧問 清水 進一(S43理 数) (神奈川茗溪会 会長)

監査室 矢野 正人(S53院修 農) (同 事務局長)

工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科
臨床工学科(2015年4月開設)

創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科
[管理栄養士養成課程]

情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

看護学部

看護学科(2015年4月開設)

公開講座

平成 26 年 12 月 13 日 (土)

場所 筑波大学

茶の湯に見る日本の生活文化

講師 熊倉功夫氏 (静岡文化芸術大学 学長)



▲熊倉功夫氏

◀聴衆のみなさん

平成 26 年度 茗溪会賞 芸術部門受賞者

芸術専門学群
洋画コース

荒木 名月

「くしゃみの予感」



「まばたきの観測」



芸術専門学群
構成専攻クラフト領域

武田 萌恵子

「たゆたう うつわ」



人間総合科学研究科
芸術専攻 (前期課程)

高橋 香緒理

「パノラマ絵本」





清水一彦先生

1974 東京教育大学教育学部教育学科卒業
1980 筑波大学教育学研究科博士課程単位取得退学
1997 博士（教育学）
専門は教育制度学
日本教育制度学会会長

現代社会はどのような教師を求めているのか

わが国の学校では、子どもたちのいじめや不登校が依然として高い数字を示しています。モンスタートーパーセントといわれるような親たちの存在も教師を悩ませています。

情報化社会の進展に伴うICT教育やグローバル時代に対応した小学校からの英語教育も教師にとつての新たな課題になってきています。

そして、このようなさまざまな課題を前に、いま多くの教師が悩み、苦しみ、なかには自信を失って教職を去る教師も現れるようになってきました。

激変する学校現場にあつて、いま教師にはどのような資質や能力が求められているのでしょうか。またこういう時代の教師をどう育てていったらいいのでしょうか。

明治期以来のわが国で求められてきた教師像を振り返りながら、今日の教員養成制度はどうあるべきかを、教育学者清水一彦さんと考えてまいります。

清水一彦さんと話していただくのは、文部科学省の高等教育局長や国立教育政策研究所長を務めてこられた筑波大学教授の徳永保さんと、同じく筑波大学教授でキャリア教育が専門の藤田晃之さんです。

藤田晃之さんには、前回に引き続き進行役もお願いしています。

【忙しい日本の教師たち】

藤田 いまの学校には、いじめとか不登校の問題だけでなく、さまざまな課題が押し寄せてきていて、先生方への期待がどんどん高まり、その重圧に耐えかねて早いうちからやめてしまう若い先生がいるということが報道されています。2011年（平成23年）11月の朝日新聞には1年目でやめてしまう先生が数年前と比べて10倍も増えているという記事が載っています。

また、心の病を理由に、ベテランの先生が辞めていくというケースも紹介されています。

清水先生はこのような学校の現状をどのように見ておられますか。また、その原因はどこにあるとお考えですか。



清水 このような現状にはいろんな原因が考えられますが、先生方に自由やゆとりがなくなってきたこと、日本の先生方が想像以上に忙しいということに最大の原因があるのではないかと見ています。

特にベテランの先生がやめていく背景には、日本の学校の官僚主義的な運営方式も関係しているように思います。校長や管理職は、あらゆる校務分掌をこなした実績と経験を重視して選考されますから、ベテラン

になればなるほど想像以上に多忙になり、自信を失ってしまふ先生も出てくるのです。

一方、若い先生がやめてしまふ背景には、学級担任の仕事はもとより、そこに新任研修や土曜・日曜の部活指導が加わり、授業やクラス運営以外にも相当な時間が割かれ、思い描いていた教師像とほど遠い現実に悩むケースがあると聞いています。多くの先生はそれを持ち越えていくのですが、一部の先生は挫折してやめてしまふのではないのでしょうか。

藤田 昨年の6月にOEC Dが、日本の教師の勤務時間は最長だという調査結果を発表しましたが、教師の忙しさというのは日本だけのものなのでしょうか。



藤田晃之先生

1988 筑波大学第2学群人間学類卒業
1993 筑波大学大学院博士課程
教育学研究科単位取得退学
1995 博士（教育学）
専門はキャリア教育学
筑波大学教授
日本教育制度学会理事

日本の教師の忙しさについてのキャンデルの調査

清水 日本の教師がなぜそんなに忙しいのかということに関連して、半世紀以上も前に、アメリカの比較教育学者のキャンデル（Kandel, I. I.）が、学校教育と文化との関係に着目し、文化の中でも特に料理との関係で各国と比較しながら研究していました。

この研究が面白いので少し紹介しますと、キャンデルは「イギリスは一般に食事はまずいと言われているが、それはうまさよりも強靱な身体作りに主眼があつて、学校教育においても体を動かす体育やスポーツ教育が重視されている。アメリカの家庭の食事はどこも平均的でカロリー摂取が重視され、学校教育では単位や資格・免状といった証明書主義が大切にされている。ドイツは大食家が多く、学校の教科書を見ても脚注に

ぎつしりと知識が詰め込まれ、知識注入主義の教育が行われている。フランス人は美食家が多く、レストランに入つてもすぐには注文せず、料理が出されてもがつがつ食わずにゆっくりと味わつて食べる。だから学校教育でも考える力や分析する力の教育が重視されている。」と述べています。

ではそういう国々と比べて日本はどうかというと、「日本人は雑食家であり、そうした料理文化を反映して日本は世界で最も学校行事の多い国になっている。また、家庭や地域の機能までも学校が担っているために、日本の学校や教師は世界で最も忙しくなっている」というのがキャンデルの結論になります。

藤田 清水先生から紹介していただいたキャンデルの研究でも、わが国の学校にはさまざまな学校行事があり、本来家庭や地域で担うべきことまで学校が包摂してきたということが指摘されていますが、永年、教育行政に携われてこられた徳永先生は、このようなわが国の学校の現状や先生方の忙しさについてはどのようにご覧になっていますか。

徳永 私は、時間軸で見た時にわが国の学校や先生方がどのような状況におかれているかということを少しお話ししてみたいと思います。

いまわが国の学校のあり方を考える時に、大きな問題となっているのが少子化です。子どもの数が減ってくるのと当然のことながら学校は小規模化していききます。例えば、教職員の定数改善をした時の高知県の人口は80万人ほどでしたが、小学校の数は300校くらいありましたから1校当たりの子どもの数は27人程度です

そうしますと、どういふことが起こるかといいますと、大都市圏以外の学校の大半は1学年1学級、そこに特別支援学級を置いて、1校当たりの教諭の数は6〜7人、校長、教頭を入れても8〜9人になってしまっています。

そういう状況になっているのに、やっていることは昭和30年代と比べて減っているかというところではない。むしろ、社会から求められるさまざまなことを学校は取り入れていきますから、当然、先生方の負担は増えていくことになるのです。

それから、以前であれば、一つの学校に同じ教科の先生が複数いて、わからないことがあれば教えてもらうということができました。また、体の具合が悪くなると早く帰る先生がいても、学校全体でサポートすることができました。それが、学校が小規模化してしまうと他の先生に負担が増えるということで、そういうことができにくくなってきているという現実も生まれています。

ですから、学校の小規模化に対応して、学校でやるべきことを精選しなければならぬのですが、審議会の答申を見ましても、「学校は」とか「校長は」とか「教師たるものは」という議論が多く、規模の特性を踏まえた学校のあり方や教育行政の議論はあまりなされていません。そのため、現場の先生方はますます多忙になっているのです。

どうしたら教師の忙しさを取り除けるか

藤田 徳永先生からは、学校でやるべきことを精選する時期を迎えているというお話がありました。清水先生は、わが国の先生が、忙しさから解放され、自信をもって望ましい教育活動をしていくためにはどういう措置が取られるべきだとお考えでしょうか。

清水 1996年（平成8年）の中央教育審議会が「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」という答申を出しましたが、この答申の副題として「子供に〈生きる力〉と〈ゆとり〉を」がつけられました。それを受けて教育課程審議会が開催され、学習指導要領の



徳永 保先生

1976 東京大学法学部卒業
2002 筑波大学事務局長
2008 文部科学省高等教育局長
2010 国立教育政策研究所長
2012 筑波大学教授
専門は大学財政、大学行政

作成へと進みましたが、施策と実際とは6～7年のタイムラグがありますから（ゆとり）はすぐには実現しませんでした。その間、いじめや校内暴力が増え続け、週休二日制の段階的移行や完全実施の施策とともに年間標準時数の確保も求められ、「学校教育に（ゆとり）」というスローガンにも関わらず、教師はむしろ忙しくなったというのが実態だったと思います。

人は、多忙な状況からできるだけ早く抜け出さなければ疲労感や徒労感がたまるばかりです。ではどうすればいいかということですが、私は、一言でいえば「直線型」業務から「循環型」業務への転換を図る必要があると考えています。仕事をいくらこなしても次から次へと仕事が増えていくような先の見えない状態をなくし、季節に春夏秋冬があるように、リズム感のある仕事の進め方（循環型の仕事の進め方）ができるようになっていけば、多忙感や疲労感は減っていくのではないのでしょうか。

そのためには、特定の人に仕事が集中しないように校務の分散化・均等化を図ること、構成員がお互いに協力し合いながら研修もできる環境がきちんと保障される必要があります。また、こどもの精神的なケアなどについては学校の規模に応じて、カウンセラーとか専門家を配置するというような政策も必要になるだろうと思います。

【国家が求めた教師像】

藤田 ここまで、今日のわが国の学校や教師のおかれている状況を見てきましたが、わが国では明治維新以来、師範学校をつくり、高等師範学校をつくり、教師養成のために莫大な人・モノ・金を投入してきました。

ではわが国はこれまで、どのような教師像を理想として掲げてきたのでしょうか、また、時代とともに国が求める教師像はどのように変化してきたのでしょうか。明治期から今日までの教師像の歴史を少し振り返ってみたいと思います。

清水 歴史をさかのぼりますと、1890年（明治23年）の「教育勅語」や「小学校令」によって日本の天皇制

教育が完成したと言われています。それは国家権力による上からの学校づくりであり、富国強兵を視野に入れた「臣民」的人間像の形成に主眼が置かれ、画一主義的、権威主義的な知識注入教育や教育訓練が重んぜられ、当然のように、教師にもそうした役割が求められていました。

大正期になりますと、新しい教育運動が起こり、従来の臣民教育に対する自由主義的な新教育運動も展開されるようになりました。新教育の指導的役割を果たし、後に私立の成城学園を設立した沢柳政太郎（元京都大学総長）は、スイスの教育実践家ペスタロッチの『教育者の精神』という考え方を強調し、「教育の仕事に携わる者は『教員』ではなく『教育者』でなければならぬ。そして『教育者』は「学識」のほかに「徳義」を兼ね備えることにより教育効果を上げることができる」というペスタロッチの考え方を早くから広め、教職の仕事の重要性が一般の人にも認識されるようになりました。

しかし、大正期の一時期にはこのような新しい教育運動もありましたが、昭和初期の社会状況を見るまでもなく、わが国の教育は、第2次世界大戦終了までは、基本は「臣民」的な人間像の形成であり、教師に求められる役割も「臣民」の育成でした。

藤田 そして、敗戦を迎え、わが国の教育は占領政策の下で大きく変わることになりました。GHQの指導で教員組合が設けられ、教師労働者論が主張された時代

も長く続きました。また最近では、教師は専門職であるという考え方が強く打ち出されるようになり、「学び続ける教師像」が強調されるようになってきています。

【嘉納治五郎のめざした教育】

藤田 ここまで戦前および戦後の国家が求める学校観や教師像を見てきましたが、筑波大学の前身である東京高等師範学校で3期23年にわたって校長を務めた嘉納治五郎先生は、国家主義の教育の時代にあっても、教育の改革、特に中等教育の改革に取り組み、その足跡は今も高く評価されています。そこで、嘉納治五郎先生が、なぜ今も高く評価されているのか、彼のめざした教育や教師の役割はどのようなものであったのかを探ってみたいと思います。

清水 嘉納治五郎は柔道の創始者であり、貴族院議員を務めた政治家であり、そして日本で最初のIOC委員で、戦争のために中止になってしまいましたが1940年（昭和15年）の東京オリンピックの招致者としてよく知られていますが、それと同時に明治から大正期にかけての教育改革に貢献した偉大な教育者でもありました。

嘉納治五郎の教育精神を受け継ぐ筑波大学では、生誕150年を記念して学内に記念像を建立し、『気概と行動の教育者 嘉納治五郎』という本を出版いたしました。この本の中でも嘉納治五郎が取り組んだ数々の教育改革が紹介されています。

その一つに中等教員の養成に対する取り組みがあります。年々中等教員の需要が高まってきた時、文部省は養成機関を多様化して対応しようとしていたのに対して、彼は、質的に対応することが重要であると考え、さまざまな実践を試みています。

具体的には帝国大学に比して優位に立っていた教授方法や教育技術をさらに向上させるために、教育実習を最終段階で集中的に実施したこと、そして教科の専門科目と教職科目の両立を追求したことは特筆に値します。

また、予科の授業科目に、論理、図画、音楽を加え



たり、心理学を教育に含めて「教育学」の名称を「心理学及び教育学」に変更したりするということもしています。

こうした嘉納治五郎のカリキュラム改革は、中等教員養成めざす当時の許可学校のカリキュラムを規定し、わが国のナショナル・カリキュラムとして普及していくことになりました。

【世界の教師像と教員養成の仕組み】

藤田 最初のところで、わが国の教師は、学校本来の仕事に加えて家庭や地域でやるべき仕事までを抱え込んでしまい、想像以上の忙しさの中にあるという話をしてくれましたが、では、「世界の教師は子どもたちとどう向き合っているのか」、また「世界の教師はどのように養成されているのか」ということに話を進めていきたいと思っています。

わが国の初等中等教育は世界一である

清水 世界の教師の話をする時に、私がまず強調しておきたいのは、わが国の初等中等教育の優秀性です。

1975年のアメリカ議会では、わが国の初等中等教育は世界一であるという報告がなされ、その後アメリカをはじめ各国からわが国の学校現場を視察する人々が増えるようになりました。私もアメリカの学校現場をいくつか訪れたことがあります、いまでもわが国の初等中等教育、特に義務教育は世界最高レベルだと



確信しています。その最大の要因は教師の優秀性であり、教員養成のレベルの高さだと考えています。

我々の教育制度研究室では、各国の教育の現状を調査研究していますが、例えばドイツの小学校の場合は午前中で学校は終わり、教師も子どもたちと一緒に自宅に戻って主婦業に専念するというような、教師と主婦の兼業が多いといわれています。そして学校は、知識・技能の詰めこみ授業が中心で、わが国の学校では当たり前の部活やクラブ活動は地域や専門のクラブの役割になっているのです。

ですから、知・徳・体の3拍子がそろった教育はわが国の学校教育の特徴であり、教員養成もそれに沿って行われています。つまり、わが国の教師は、欧米のような「パーツ」を受け持つ教師と違って、何でもこなせるオールマイティが求められていて、教員養成も全人教育が主軸になっているのです。

世界の教師はどのように育てられているのか

藤田 清水先生の話では、わが国の教師の養成は全人教育型になっているということですが、では世界の教師養成はどのように行われているのか、徳永先生からご紹介していただきたいと思っています。

徳永 文部科学省では教員養成大学の修士化をめざそうという動きがあった時に、研究会を立ち上げ、世界のあちこちに職員を派遣して調査したことがあります。その時の調査によると、アメリカには教員免許制度がないので、基本的には大学を出ていれば教員になれる制度になっています。

ただアメリカの大学、特に大学院は実践的な専門教育を通じて専門職業人材を送り出すことを使命としていることが多いので、「教員養成プログラム」が重要な役割をはたしています。

イギリスでは、大学に附置された「教員訓練センター」があつて、そこで教員の養成もしていますが、実はこの「教員訓練センター」というのは高等教育機関ではないので、設置場所は大学でなくても、小学校の中でもいいという位置づけになっています。

フランスでは、大学の学部を出た人が、大学院ではありませんが専門的な過程に進んで教育を受け、教員になるという仕組みになっています。

このように、世界の教員養成の仕組みは国によって大きく違っていて、それぞれの国の実情にあったやり方を行っているようです。

わが国の教員養成の考え方は現場主義が強い

徳永 では、わが国の教員養成の仕組みをこれからどう設計していいたらよいかということですが、実は、わが国では、「教員は学校現場に出なければものにならない」という考え方が根強くあり、大学における教員養成教育については、教育関係者の間でもあまり信用されていないという実態があります。

他の専門的職業については、大学教育を通じて専門的で実践的な知識・技能を含めて、当該専門職に必要な資質能力を形成することが十分可能だと考えられ、期待されています。もちろん現場に出て大学で学んだことをブラッシュアップすることも必要です。

しかし教員については事情が異なり、「大学の教員養成教育には多くを期待することはできない」という考え方が強いのです。

だから教職大学院の制度を設計する時にも、学生は教室にいるよりも教育実習を2年間させた方がいいという声がありました。

藤田 どうして大学における教員養成教育は多くを期待されていないのでしょうか――。

徳永 実は、戦前の日本の学校では、有資格の教員が50%を超えた時代はありませんでした。昭和16年の時点で、師範学校を出た先生は44%で、これに検定試験に合格した先生を足しても半数くらいでしたから、そういう意味では多くの先生は代用教員でした。つまり、そこで求められていたのは、知識や教育技術ではなく、立派な人格を持った人が良好な師弟関係を形成していれば「いい教師」であると受け止められていたのです。言わば教員養成教育不要論です。

でも、これでは文部省としても困りますので、文部

省としては有資格教員だけで教育をするという理想を掲げてその実現をめざしてきました。

しかし昭和25年の段階でも助教諭の数は25%もあり、昭和30年代になっても12・5%は助教諭という状態が続いていました。

このような状況を踏まえて教員免許の開放免許制度が導入されたのです。開放免許制度はマッカードールの教育民主化政策の一環として導入されたという解説が一般的ですが、私はそうではないと考えています。

課程認定という手続きを踏みますが、アメリカのように大学を出ていれば教員になれる資格を認めるという制度に転換することによって有資格教員だけで学校教育を実施するという念願を実現させることができたと考えています。

教育行政の関心は教員養成教育よりも免許制度

徳永 文部科学省ではこれまでも教員養成や教員の資質向上政策を議論してきましたが、そこで議論の対象になるのはいつも免許制度の話です。つまり免許取得要件とか、どういう単位を取ればいいのかという話が中心で、教員養成教育の内容に着目した議論はほとんどなされてきませんでした。初中局の幹部や中教審の委員になっている都道府県の先生方と話していても、誰からも大学の教育に期待しているという声は聞こえてきません。

教員養成教育に長い伝統を持つ筑波大学に身を置く者としては寂しい思いもしています。

藤田 いま徳永先生から、わが国では大学における教員養成教育よりも現場経験が重視されているという話を聞いて、驚くと同時に寂しい思いがしています。

でも私たちは、優れた教師を育成するための教育は必要であると考えていますから、ここで各国の教員養成がどのように行われているかを探ってみたいと思います。

アメリカの教員養成の仕組み

清水 私はアメリカのジョージ・ワシントン大学（JW



U) に行ったことがあります。この大学の高い専門性を持つ教員を養成するためのプログラムは、当時全米のモデルになっていましたので、それを少し紹介したいと思います。

JWUには高度教育専門職を育てるための大学院のみのプロフェッショナル・スクール（教育・人間発達スクール）があり、ここでは知識（knowledge）と個性（individuality）と社会的責任（social responsibility）の3つを融合させることを統一目標にした教師教育プログラムがつくられていて、次の5点が強調されています。

- ① 教育の文化的、歴史的、社会・心理学的基礎を学ぶコースワーク
 - ② 研究を構想し、生産し、評価する機会
 - ③ 多文化的で多様な統合クラスを含む初等学校での諸経験
 - ④ 直接教授、ティームティーチング、探究、協同学習、自己学習、問題解決を含む多種多様な教授方法を用いた実践とフィードバック
 - ⑤ センターシティ、都市、都市周辺、郊外等の学校におけるフィールド経験
- このように、高度教育専門職を育てるためのプログラムでは、初等教育の教員に必要なとされる大学の一般教育（general education）を前提に、明確な目標と教育戦略が明示され、実際のフィールド経験や問題解決型の教育が重視されています。

そして、このプログラムの修了要件は39単位で、修了者には初等教員資格とともに、修士レベルの専門職学位 M・Ed（Master of Education）が授与されます。

教員養成大学の単位制度はどうあったらいいか

清水 教員養成教育を考える時に、もう一つ押さえておかなければならない問題があります。それは、大学における教職科目の単位の問題です。

戦後のわが国の大学は、教員養成の開放制原則により教員養成大学以外でも教員免許が取れるようになりましたが、そこで問題になったのが教職科目の取り扱いでした。

占領下にあったわが国は、GHQの指導の下で、卒業に必要な総単位を120単位としましたが、教職単位はこの120単位の中に入れるのかどうかということが大きな問題として浮上してきました。

当初のわが国の基準委員会の考え方は、「教職課程については、小学校教員の場合は教職科目を120単位内に取ってもよいが、高校の教員の場合はこれを120単位内に取るときは専門的素養が不十分になるから、かかる場合には教職科目の単位を120単位外に取ってもよい」というものでした。しかしアメリカからは120単位内にすべきであると強く反対され、その結果、当時の戦後教育改革の理念を実践的に全国の関係者に伝えていたIFEL（教育指導者講習会）では、自由選択科目（54単位）の具体的内容が次のように提示されました。

- 外国語 16単位
- 専攻に関連する科目 13～18単位
- 教職科目 20～25単位

しかし現実には、教職科目を卒業単位数の中に組み込むのは無理があり、多くの大学では卒業に必要な単位の外に設定することになって、特に複数の免許状を取得する学生は120単位（基準上は124単位）を大幅に超えて履修するようになったのです。

そして、この教職科目の単位の問題は、いまでも教員養成制度を考えるときの大きな課題になっています。

徳永 いま清水先生が話されたことは「大学教育の質の保証」に関する大事なテーマです。教職課程も大学教育として行われているのですから、本来、大学教育の質の保証という枠組みの中で他の教育プログラムと同様に考えていくべきなのですが、大学の先生方の多くは、教職課程は大学教育の枠外のように考えていて、「カリキュラムポリシーの明確化」「GPAや科目ナンバリングの導入」「提供する教育内容水準の保証から学修成果の保証への転換」などは、大学教育改革の対象とされていないのです。

GPA

アメリカなどの大学で導入されている成績評価システム

科目ナンバリング

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学習の段階や順序等を表わし、教育課程の体系性を明示する仕組み

【わが国の教師に求められる資質能力とは】

藤田 徳永先生から、わが国の教員養成の考え方は、大学での教職教育よりも現場での経験が重視されていて、大学の先生ですら教職課程を大学教育の枠外のように考えているという話を聞いて、教職課程を担当する一人としては困惑するばかりですが、では、さまざまな教育課題に直面しているわが国では、いま、教師にどのような資質や能力が求められているのか、この問題に踏み込んでみたいと思います。

教師の資質能力をルソウの教師論に学ぶ

清水 私は、「教員の資質能力とは何か」と問われた時に、二つのことを頭に浮かべます。

一つは、学生時代に学んだルソウの教師論であり、もう一つは1966年(昭和41年)の中教審答申(後期中等教育の拡充整備について)〔41答申〕というです。

ルソウの教師論はさまざまな形で紹介されていますが、私が印象深く受けとめているのは、

① 教師は若くなければならない。

(これは暦年齢の若さではなく精神的に若くなければならないということを行っています)

② 教師は子どもを差別してはならない。

③ 教師は子どものつぶやきを見逃してはならない。

④ 子どもたちに最も教えたい職業は「生きること」である、という言葉です。

私は、このようなルソウの教師論を今でも大切にしている、学生たちに語り伝えています。

もう一つの「41答申」は後期中等教育のあり方を検討した答申ですが、その改革理念として、国家社会における「期待される人間像」を明確にしています。具体的には、個人として、家庭人として、社会人として、国民としての4つの観点から期待される人間像が述べられていますが、教員の資質能力を考えるうえで、こうした日本人全体に共通する人間像が確立している必要があると考えているのです。一例をあげれば、「個人として」の中に、「畏敬の念を持つ」ことが挙げられています。これはまさに日本的な精神であり、こうした日本人のあるべき姿を知り、自ら身につけていくことは教師に必要な資質能力ではないでしょうか。

教師の資質能力はスキルを教える力である

徳永 私はこれからの教師に求められる資質能力は、子どもたちに「スキルを教える力」だと考えています。

1983年(昭和58年)の中教審の教育内容等小委員会報告は、国の教育行政を大きく転換させ、現在に至る学習指導政策を形成したもので、発表当時は生涯学習理念とそれに基づく自己教育力の育成ということに注目が集まりましたが、実はこの報告は、学校教育の目標を、「知識の習得から自己教育力と表現していた学習スキルの形成に転換すること」が中核でした。

そしてこの後の学習指導政策は、知的コンテンツを減らしてもスキルをどうやって教えるかを指すはずだったのに、実はそれをやってこなかった。

そのため、地方のある国立大学では初年次教育で「ノートの取り方」まで教えていると聞いています。

最近になって、ようやく、広島県の中等学校や、新



潟大学の附属小学校、附属中学校で、「ことば科」や「スキル科」をつくって、論理的思考や表現力をどうやって教えるかという研究が始まったようですが、スキルの教育はまだこれからというのが実情です。

だから私が大学に期待したいのは、ぜひ実践的な教育研究をしてもらいたいということです。例えば「美術の授業でクリティカルシンキングをどう教えるのか」、あるいは「社会科の授業で表現力をどう教えるのか」というような実践的な研究をして、文部科学省よりも先に研究開発をして、教育行政をリードしてもらいたいと思うのです。そしてそういう実践的な教育研究に基づいた教育をしてもらえれば、大学における教員養成教育に対する現場の不信感もなくなるだろうと思うのです。

【わが国の教員養成制度はどうあるべきか】

藤田 ここまでわが国の教師の置かれている現状や大学における教員養成教育の問題点などを世界と比較しながら見てきましたが、子どもたちを取り巻く環境も、また、こどもたちの成長の仕方も、かつてとは大きく変わってきており、わが国の教員養成制度も大きな転換期を迎えようとしています。

そこで、これからのわが国の教員養成制度はどうあるべきかについて、これまでの議論も踏まえながら考えてみたいと思います。

教員養成系大学の維持は国家的な事業である

清水 いま国立大学の機能強化が叫ばれ、評価に基づく資源配分（予算配分）という方向がますます強まる中で、わが国の国立大学は、国が「維持」する研究中心の大学と、国が「援助する」教育中心の大学に2極化する可能性が高いと思われます。

そして、国立の教員養成系大学の将来像については、文部科学省の内部で、かつての学芸学部に似た「教養学部」構想や、アメリカ的なリベラルアーツ化構想、あるいは大学によっては理科と文科に専門化するというような議論もあったと聞いています。

しかし、国家事業としての教員養成の重要性を考えれば、少なくとも教員養成系大学は、規模の縮小はあってもその全面的な廃止は決してあり得ないし、あつてはならないと考えています。

そこで、現在の教員養成系大学の更なる充実をめざして、アメリカの事例を参考にしながらいくつかの提案をしたいと思っています。

『提案1』教員養成系大学の

プロフェシヨナル・スクール化

清水 第1の提案は、教員養成系大学の博士課程を含むプロフェシヨナル・スクール化です。すでにすべての教員養成系大学には修士課程が設置され、現職教員を含む社会人の再教育が行われていますから、その経験と実績を生かせば制度的にはそれほど難しいことはありません。ただ、プロフェシヨナル・スクール化に際しては、学部教育のリベラルアーツ化を図るなど抜本的見直しが必要で、学位問題についても専門職学位と研究学位を区別する必要があるだろうと思います。

アメリカでは、専門職学位と研究学位は明確に区別され、例えば、Ph・D (Doctor of Philosophy) はすべての研究学位であるのに対し、教育学におけるEd・D (Doctor of Education) や医学におけるM・D (Doctor of Medicine) は専門職学位として位置付けられ、それ

ぞれ社会的にも高い評価を受けています。

わが国でも教員養成系大学のプロフェシヨナル・スクール化をめざすためには、その理念・目的を反映した学位名称と学位取得プログラムの開発を急ぐ必要があるだろうと思います。

『提案2』教員養成系大学と他学校種との

連携・統合・融合化

清水 第2の提案は、他学校種との連携・統合・融合化です。

例えば、短期大学との連携ということでは、単位互換制度やトランスファー協定を利用して教職科目をはじめ教員免許関係の教科・科目の単位互換を図ったり、教員免許および短期大学士取得者のトランスファーを促進するプログラムを開発したりすることが考えられます。また、「学士号授与促進プログラム」とか「教師教育連携システム」のような新しいシステムを開発し、現行の「科目等履修生制度」を活用して短期大学士取得者の学士学位の授与を促進させたり、短期大学2年と4年制大学の3・4年次の一貫した教師教育システムを構築したりすることも考えられていいと思います。

このほか、すでにいくつかの大学で試行されている高等学校との連携プログラムも視野に置くことができます。多くの高校生に早くから教師の仕事や教育学に興味・関心を持ってもらうとともに、優秀な教職希望者をリクルートする方途の一つとしても高大連携プロ

グラムを充実させ、積極的に活用していくことも必要だと考えます。

【教員養成制度改革の重要な視点】

藤田 きょうは「現代社会はどのような教師を求めているか」というテーマでさまざまな角度から話し合ってきましたが、最後に、わが国がこれから教員養成制度改革を進めていく上で最も重要な視点は何かを清水先生に押さえていただいて、今日のまとめとしたいと思います。

清水 教員養成制度改革で押さえておかねばならない点を二、三挙げたいと思います。

一つは教師教育への概念転換です。

教員養成系大学の発展を考える場合、従来の「教師養成」という考え方から「教師教育」という考え方に概念を広げながら、わが国の教員養成システムを再構築することが必要であると考えています。

そのためには、教員養成の3つの柱である「養成制度」「採用制度」「研修制度」の抜本的な見直しが必要になります。その際、義務教育教員の養成システムと中等教育教員の養成システムの区分けも視野に入れなければならないだろうと思います。

現在のわが国の教員養成は、国立の教員養成系大学では、主として初等教育教員あるいは義務教育教員の養成に重きを置き、中等教育を担当する高等学校の教員養成は私立大学が高いシェアを占めているという形になっていますが、教員養成が国家の重要な事業であるならば、国立大学は初等・中等に関わらず教員養成にもっと大きな役割を持つ必要があると考えています。

もう一つは、教員免許制度の見直しです。

2002年（平成14年）の中教審答申（今後の教員免許制度の在り方について）では、現在、学校種ごとに分かれている教員免許状を、将来的には、「初等教育免許状」とか「中等教育免許状」とか「義務教育免許状」というように、教員免許を総合化する方向が示唆されました。

すでに小中一貫校の試行も始まっていますから、教



第14回 顕彰「茗溪会賞」候補者の 推薦依頼について

茗溪会が主催する顕彰事業は、茗溪創基130周年を記念して始められた公益事業です。平成27年には第14回を迎えます。

顕彰対象は、地域社会にあって広く社会に貢献している青少年や一般社会人となります。

今回も、顕彰候補者を広く全国的な視野から積極的に発掘し、下記の要領により推薦してください。

ただし、公益事業としての趣旨から、政治家、現職の公務員等は避けるほか、現在、本会の本部、地域組織等の役職に在る者は対象外とします。なお、本会会員であって役職にあるものでも、その社会貢献の実績が、社会的に評価されている場合は、候補の対象から除かないものとします。

平成24年度からは、従前の、筑波大学の芸術関係学生への顕彰に併せて、社会貢献を進めている大学院生で、大学当局から推薦された大学院生等も対象にしました。

また、社会的客観性を高めるために、当該地の教育委員会、新聞社（支局等を含む）、放送局あるいは関係団体、有識者、本会会員の提案、参考意見等を積極的に求めてください。

- (1) **顕彰対象** 社会貢献活動者、芸術創造活動(作品)者等。
- (2) **推 薦** 全国の代議員、地域組織等（代表者）、本部理事等から候補者を推薦する。推薦にあたっては、世代、地域、職域、あるいは学内にあっては芸術、スポーツ、また、社会貢献度、研究成果等を考慮する。
- (3) **選 考** 一般の社会貢献者は、推薦された候補者の中から、選考委員会において顕彰対象者を選考する。選考委員会は、当該担当の副理事長を座長とし、理事会内に設けられている各委員会の委員長を内部委員とし、理事長が委嘱した有識者を外部委員として構成する。

なお、筑波大学生、大学院生に関しては、学内に設置された選考委員会の結果を尊重する。

- (4) **推薦締切** 一般候補者の推薦締切は、平成27年9月末日、学内締切は、平成28年2月末日として、関係書類を事務局へ提出されたい。
- (5) **顕彰式等
(茗溪会賞)** 一般顕彰者を本部に招いて、顕彰式、賀会を行い、大学院生関係者は学位授与式等に併せて行う。

また、顕彰者の推薦記録等を中心に記載した“顕彰録”を作成して、本部に長く保存するとともに、本人をはじめ国会図書館等の関係方面に贈呈する。

一方、顕彰受賞者の社会貢献活動の概要等を、季刊誌「茗溪」へ掲載して、広報・周知を図る。

員免許状のあり方は急を要する課題になってきています。

そして、この二つに加えて、教員養成系大学において忘れてならないのは、専門分野内のリーダーシップと質的向上のための将来計画の作成であり、そのことによって専門分野の存在意義や価値を明示することです。教員養成系大学のプロフェッショナル・スクール化もこうした基本的な作業抜きには考えられません。

また、従来の修士課程の一種であった「専門大学院」が「専門職大学院」に移行する時に、先行する法科大学院に準じる形で厳しい設置基準が示されましたが、教職大学院が、これから高度な専門性を持つ教員を育成する機関としてその存在意義や価値を高めていくためには、実践学としての教育学の再構築化を図っていくことが、新たなテーマになってきているということも改めて強調しておきたいと思っています。

藤田 きょう、お二人の先生は、「実践的な教育学研究をどう進めていったらいいのか」、また、「私たちのめざ

す高い専門性を持つ教員養成のプロフェッショナル・スクールはどのようなものであったらいいのか」というビジョンを示してくださいました。

しかし、わが国の教員養成の現実を見ると、積み残してきた課題が非常に多いということを知りました。

特に徳永先生が指摘された、「スキル」や「コンピテンシー」のトレーニングをどう進めていくかという問題や教員養成を大学教育の中にどう位置づけていくのかという根本的な議論が実はこれからの課題であるということもわかりました。

そしてもう一つ、今日のお話の中で強く印象に残ったのは、筑波大学の前身である東京高等師範学校の校長であった嘉納治五郎先生が、あの当時、先進的な教師教育のプログラムをつくり、わが国の教育改革に取り組んでいたということでした。そしてそういう伝統を受け継ぐ筑波大学で教師教育の一翼を担っている一人として、私も筑波大学の潤沢な人材ネットワークを活用して、わが国の教育行政をリードするような教育

研究を全国に発信していかねばならないということとをいま強く感じています。

清水先生、徳永先生、きょうはありがとうございました。

今回は「教育学者 清水一彦さんと考える 日本の教育」の最終回になりますので、「教育とは人間の可能性を引き出す営みである」というテーマで、清水一彦さんからさまざまな課題に直面しているわが国の教育に対する提言をいただく予定です。

なお、清水一彦さんは、平成27年4月1日付で、山梨県立大学の理事長・学長にご栄転されました。

（今回の話し合いは、本年2月10日に筑波大学で行われたものです。）

万人の学習権の

生涯にわたる全面保障を

未来永劫に！

筑波大学名誉教授 桑原 敏明

はじめに

特別寄稿のお誘いは、私にとって身に余る光栄である。しかし、変化の激しい全人類の地球規模の教育制度の問題状況について、限られたスペースで提示することは至難の業である。他方でいまや故人となられた先輩「茗溪人」の声が聞こえてくる。「桑原君、茗溪会は、わが国の教育改革に少なからず貢献してきた。この際、考えを率直に語るがよい。」と。

そこで、現代における教育制度改革の課題を私なりに論じることにした。



【略 歴】

1976年 東京教育大学助教
 1977年 筑波大学助教
 1986年 同 教授
 1998年 同 副学長
 専門は教育制度学
 日本教育制度学会顧問(前会長)

Ⅰ 現代の教育制度原理Ⅱ万人の生涯学習権の保障

「現代の教育制度改革」とは、「教育の自由・平等・個性」といった教育制度の根底にある「教育基本権」を十分に実現できていない現状に鑑み、より有効な新しい制度に創り替えることをいう。

したがって、「教育改革案」の前に「教育制度問題」、さらにその前に「教育制度原理」が、しかも体系的に把握されていなければならないのである。

この点、今回「特別寄稿」で求められたのは「教育制度改革原理」を体系的に捉えようというものであった。すなわち、

⑦社会の情報化・グローバル化に伴う情報教育・英語教育の強化（人間の生存環境を改善するための教科制度の改革）

④グローバル社会の進展に伴う英語教育の低年齢化（人間の生存環境に適応できるための教科内容方法改善）

⑤長引く不況から生じる教育格差問題への対処（教育格差問題の分析による教育基本権の保障）

⑥情報教育・英語教育の制度改革（学習意欲の保持、個別学習、入試制度、学力評価制度）

等の教育制度問題群に対してどのような制度の改革が図れたか、どのような問題が残されているか、いわば教育制度改革のチェックリスト作りのヒントを示唆していただいた。

しかし、教育制度の事項と改革原理との関係は1対1だとは言えず、本報告では逆に教育制度原理の側から、アプローチを試みる。

Ⅱ 現代の教育制度改革は「万人の生涯学習権の保障」である

近代社会において芽生え、現代社会においてその十全なる実現が期待される「教育制度改革」は新しい環境の中で万人の主體的に生きる権利Ⅱ「当事者主権」者の育成へと変換した。

(1)「教育」は、「生きる力」を獲得する「学習」である。

ここでは、学習意欲の発動・維持・再生と効率的な学力形成が教育制度改革の土台である。

(2)この土台は、「万人の生存権」と連動した「教育基本権」としての「生涯学習権」であり、人間の発達段階に応じて、(ア)胎児期、(イ)幼児期、(ウ)児童期、(エ)思春期ないし青年期、(オ)成人期、(カ)高齢期などと段階区分される教育体系が構築される。

なお細かくこの「土台」を観察すれば、(A)学習コースの選択問題、(B)教育内容、(C)教育方法、(D)教員制度、(E)教育施設運営制度、(F)教育行財政制度などが区分される。

(3)現代の教育改革においては「国民の利益」のために改革がなされるとされる。ここで、「国民」は、(ガ)学習者(ギ)地域住民(ク)国民(ケ)人類(コ)親父兄・学校設置者・学習者・教育者等の性格付けがなされ、それぞれの権能が区別される。

Ⅲ その他有用な観点

(1)教育は、生きる技を身につける機能である。生存権が基本的人権ならば、生きる技を身に付ける教育も同じく基本的人権である。

(2)人間の学習は脳の発達を媒介として行われる。人間の脳は、発達段階に応じて、①胎児期教育、②乳児期教育、③児童期教育、④少年期(思春期)教育、⑤青年期教育、⑥成人期教育、⑦壮年期教育、⑧高齢期教育の8段階からなる生涯学習は万人の権利であり、生きる技の獲得は、生まれてから死に至るまでの生涯学習制度として体系的に保養される。そして、生涯教育の体系は①胎児教育・②幼年期教育・③義務教育・④中等教育・⑤高等教育等の教育段階に区分される。

(3)各教育段階における進級は、各発達段階に固有な共通教育(教科教育)と個性教育(主題学習)から構成される。教育段階の進級は共通教育及び個性教育の試験によって認定される。

(4)人間の脳機能は、その生存環境(広義の社会的文化)とともに変化する。そして、その変化には数百年を要する。以上。

平成26年度 茗溪会賞（大学院修了者）受賞者・活動テーマ

H27.3.14

研 究 科	専 攻	氏 名	活 動 テ ー マ
教育研究科	スクールリーダーシップ開発専攻	福 田 美 紀	地元の高校での探究学習推進、海外での日本語授業補助
	教科教育専攻	窪 谷 祥 子	地域学校への貢献、大学でのボランティア活動
数理物質科学研究科	物理学専攻	沢 畑 克 樹	高校生の理科研究活動への貢献と高校生のプレゼンテーション能力向上の支援活動
	化学専攻	小 倉 寛 敬	研究科進学説明会への支援活動、就職課就活ボランティア活動
	物性・分子工学専攻（前期課程）	工 藤 友 紀	小中高生への理科教育啓蒙活動
	物性・分子工学専攻（後期課程）	川 島 裕 嗣	科学デモンストレーションによる理科教育実験活動
システム情報工学研究科	社会工学専攻（社会工学学位プログラム）	土 居 千 紘	地域再生のためのワークショップ・ファシリテート実践活動
	コンピュータサイエンス専攻	天 本 涼 太	情報通信技術を活用した農作物への害獣対策方法の推進活動
	知能機能システム専攻	江 口 洋 丞	社会的活動を解決する支援機器のデザイン推進活動
	構造エネルギー工学専攻	野 崎 峻 平	「茨城元気計画」の活動を通しての社会貢献活動
	社会システム工学専攻	張 心 笛	地域連携活動や高大連携活動による地域貢献活動
	経営・政策科学専攻	野呂瀬 葉 子	経営・政策科学専攻におけるDDP学生としての国際コミュニケーション推進活動
	社会システム・マネジメント専攻	NOUR SHARKASI	筑波大学主催の文化対話公開ゼミの企画・実施、米軍基地ハイスクール連携プロジェクトへの貢献等
生命環境科学研究科	生物科学専攻	渡 邊 祐 太	日中韓大学院生フォーラムによる国際学術交流活動とSSH高校生へのサイエンス指導
人間総合科学研究科	教育学専攻	松 原 悠	大学生と一般社会人の科学コミュニケーションの促進
	心理専攻	三 和 秀 平	教師の資質向上に対する推進活動
	心理学専攻	高 田 治 樹	サークル活動推進への貢献
	障害科学専攻（後期課程）	呉 純 慧	視覚障害学生並びに視覚障害者に対するボランティア活動と筑波大学と台湾の大学間の国際交流協力
	生涯発達専攻	相 川 康 弘	東日本大震災の被災者における使命感の研究、被災者への「聴き書き」人材育成事業
	生涯発達科学専攻	高 柳 真 人	中高生のキャリア発達及びニート等の若者の自立支援について、子供、保護者や教員を対象とした講演や指導・相談活動
	感性認知脳科学専攻	辛 恩 僖	先天盲の色彩概念の解明と視覚障害者の美術鑑賞ボランティア活動
	ヒューマン・ケア科学専攻	高 田 大 輔	高齢者の会話を科学し、ケアリング社会を構築するための教育・研究活動
	スポーツ医学専攻	小 澤 多賀子	茨城県における住民参加型介護予防システム構築を推進するための事業評価
	芸術専攻（前期課程）	竹 淵 翔 太	筑波大学附属病院バス停セラピーガーデンの造成と活用
図書館情報メディア研究科	図書館情報メディア専攻	鈴 木 康 平	アクティブラーニングに関する情報発信

平成26年度 茗溪会賞（芸術部門）受賞者・作品名

H27.3.14

所 属	領 域	氏 名	作 品 名
芸術専門学群	美術専攻洋画コース	荒 木 名 月	「くしゃみの予感」「まばたきの観測」
	構成専攻クラフト領域	武 田 萌恵子	「たゆたう うつわ」
人間総合科学研究科	芸術専攻（前期課程）	高 橋 香緒理	「パノラマ絵本Ⅰ」「パノラマ絵本Ⅱ」



「茶の湯にみる 日本の生活文化」

講師：
静岡文化芸術大学学長 熊倉 功夫 氏
平成26年12月13日 筑波大学にて

茗溪会の「茗」というのはお茶のことで、古くからお茶を表わす言葉として「茗」の文字が使われてきました。この文字の歴史をさかのぼってみますと、タイ北部に「ミエン」というお茶を食用する習慣があつて、そのお茶の名称の「ミエン」と「茗」の文字は音が同じで、「ミエン」が漢語になった時に「茗」の文字がお茶の名称として使われたのではないかと言われています。

そして、「溪」は「谷」を表わす言葉ですから、「茗溪」とは「お茶の谷」という意味で、現在の「御茶ノ水駅」があるあたりを指していて、かつてそこに東京高等師範学校があつたことから、その同窓会は「茗溪会」と名付けられたのです。

ところで、現在、茶道を嗜む人は少なくなっていますが、高齢になっても元気な人はお茶をよく飲んでいます。和食を食べ、お茶を5杯飲むと健康で長寿になると言われています。

お茶の消費量と米の消費量がともに第一位である静岡県は健康長寿も第一位で、特に掛川は「深蒸し茶」が作られ、お茶も良く飲まれているために癌の発生率も低いと紹介されています。このようなデータを見ますと、和食とお茶は体に大変いいのではないかと考えられます。

「数寄」や「色」は「茶の湯」のいい

さて、ここからは「茶の湯にみる日本の生活文化」というお話をしてみたいと思います。
皆さんは「数寄」という言葉を聞いていると思います。皆さんは「数寄」という言葉は夢中になることで、夢中になることの原点は恋ですから、「色を好む」というのが「数寄」という言葉の原点です。

ただ、「風流を好む」とことと、「色恋の好き」とを区別するため、「数を寄せる」という文字をあてて「すき」と読ませるようになったのです。

そしてこの言葉は、最初は「楽が数寄」「庭が数寄」「歌が数寄」というような使われ方をしていたのですが、次第に物に執着するという意味が強くなり、物に執着することを「物好き」というようになりました。

その物好きの典型が茶人で、茶人は茶道具となると、あれがいい、これがいいと夢中になりました。

その後、この「数寄」という言葉は、「茶」のことを指すようになり、千利休の時代には、「数寄」というのは茶の湯のこと、「数寄者」とは茶人のこと、「数寄屋」とは茶室のことを指すようになっていきました。

お茶は体にいい飲み物

今から800年前、日本にお茶をもたらした栄西禪師は「喫茶養生記」を著わし、「お茶は体によく、万病の薬である」と書いていますが、そのことは、医学的にも証明されています。

お茶の中には抗酸化作用を持つカテキンという物質が含まれていて、酸化を防止する効果があるとされています。体が酸化するということは老化するということです。それから、カテキンには老化を防ぐ作用があり、それが緑茶の中に多く含まれているのですから、お茶が体にいいというのは当然です。

また、カテキンというのはタンニン的一种で、お茶の

渋みのもとになるものですが、昔はこのタンニンについては「お茶の渋みは体に良くない」、「飲みすぎると色が黒くなる」と言われていた時代もありました。でもそんなことはありません。カテキンは、赤ワインのポリフェノールと一緒にあることも最近わかってきて、むしろ、お茶は体にいいと言われるように変わってきています。

川柳「太平の眠りを覚ますじょうきせん たつた4杯で夜も眠れず」の本当の意味

幕末にペリーが蒸気船4艘で日本にやってきて、その頃の川柳に「太平の眠りを覚ますじょうきせんたつた4杯で夜も眠れず」があります。これは黒船4艘がやってきて大騒ぎになって夜も眠れなくなったことを風刺したものだと説明されていますが、実はこれは裏の意味で、本当は別の意味があるのです。

この川柳に詠われている「じょうきせん」というのは、お茶の銘柄であつて、喜撰法師が住んでいた宇治に宇治山という名所がありますが、そこで「喜撰」というのがお茶の銘柄となりました。この「喜撰」という銘柄の上等なお茶が「上喜撰」なのです。

そして、お茶にはカフェインが含まれていて覚醒作用がありますから、上等の銘柄「上喜撰」を「たつた4杯飲んだだけで夜も眠れなくなった」というのがこの川柳の表の意味だったのでした。

シーボルトはお茶の調査に来ていた

長崎の出島にやってきたシーボルトは、日本から大量の資料をオランダに持ち帰りましたが、その資料の中に

お茶のサンプルが二十数種類もありました。
なぜシーボルトはお茶の資料を沢山持ち帰ったかという点、当時、ヨーロッパでは、お茶の大部分を中国から輸入していましたが、アヘン戦争直前で中国の情勢がだんだん危うくなってきたので、安定したお茶の輸入先を調査するために日本にやってきたのです。

シーボルトが持ち帰ったお茶のサンプルは、現在オラ

ンダのライデン大学の博物館に残っていてそのサンプルを調べてみたところその中に「上喜撰」とラベルのあるお茶がありました。

薬のお茶から楽しむお茶へ

お茶を飲むと、カフェインの効果で、気分がすっきりし、意識がはつきりしますので、眠気を覚ますために、禅寺でお茶を飲むようになったのではないかと言われています。

そして、禅に一番心を寄せていた武士階級にお茶が広まり、やがて、お茶は「薬としてのお茶」というよりも「楽しみのお茶」「嗜好品としてのお茶」になり、お茶を飲むことが楽しい、お茶はおいしいと人気が高まり、あちこちでお茶が作られるようになって、お茶を飲む習慣が広がっていったと思われます。

そうした流れの中で、お茶を楽しむ一つとして、お茶の味を飲みあてる闘茶というゲームが生まれました。

闘茶というのは、4種類のお茶を10袋にわけてたて、どういふ種類のお茶であるかを当てっこするものですが、この4種10服という闘茶の形式は次第に庶民の間にも広がっていききました。

現在でも、群馬県の吾妻町の集落には「お茶講」という大変珍しい闘茶が残っていて、集落の人たちが1軒の家を集まり、4種7服のお茶を飲みあてるといふ形の闘茶を楽しんでいます。

茶の湯の世界と唐物文化

鎌倉時代から室町時代にかけては日中貿易が盛んな時代で、えらいお坊さんたちも日本に来るようになり、それに合わせて中国の工芸品、絵画、書が日本にもたらされるようになりました。

それらの中国からもたらされた文物は唐物と呼ばれ、日本人のあこがれの的になっていましたが、慈照院銀閣寺を建てた足利幕府の八代將軍足利義政が集めた文物は

唐物の中でも最高の美術品や工芸品ばかりで、「東山御物」といわれ、いまでも茶の湯の世界では最高の評価を得ています。

このように、貴族社会に唐物文化が入る一方で、庶民の間では闘茶のような庶民的なお茶の遊びが盛んになり、二つの流れが合体して新しい「茶の湯」というものが生まれてくるようになります。

この和物と唐物を上手に取り合わせる和漢折衷の新しい文化を、当時の言葉では「和漢兼帯」といいますが、こういう文化が室町時代に起こり、ここから「侘茶」が誕生していきます。そしてこの「侘茶」が、今日の「茶の湯」の源流となっていくのです。

生活文化としての「茶の湯」

「茶の湯」は、わが国の戦国時代の16世紀に、千利休が大成させたと言っていると思いますが、その千利休の孫の宗旦の時に、千家は、表千家、裏千家、武者小路千家に分かれ、この三千家が利休の茶の湯を今日に伝えるようになりました。

茶会といえど、皆さんも大寄せの茶会を思い浮かべるかと思いますが、実はこれは新しいことで、大寄せの茶会が盛んになったのは戦後のことです。戦前は、利休350年忌の大茶会のような特別の茶会のほかに大寄せの茶会はなく、4〜5人が集まる茶会が一般的でした。

お茶会の準備からお茶会の日の亭主の仕事

正式のお茶会は、通常は4時間ほどかかり、お茶会の亭主は、何か月も前からお茶会の準備をし、その日の組み立てを考えます。お茶会の楽しみは亭主7分、客3分といわれるくらいに亭主の方が楽しいものです。お茶会の当日、亭主は、まず「水屋」の準備をいたします。そして客が来る前に「水打ち」をして、客が「席入り」をすると「炭手前」をやり、「炭手前」が終わると「懷石」を出して食事となり、食事が終わると「菓子」を出します。

ここまでするお茶会の前半で2時間ほどかかります。

清めの「水打ち」

「水打ち」は清めの作法で、客を穢れた場所にお招きするわけにはいきませんから清めの水打ちをします。

水打ちをした奥には「露地口」があります。その露地口に入るまでが俗界で、露地口に入ると清らかな世界に入ります。亭主は、既に「床飾り」をして準備しており、「水屋」では、水を整えたり、道具を清めたり、水瓶や柄杓なども用意されています。そして露地口に入ると草履などが用意されていて、そこで身支度をして「露地」を進みます。



水打ち

「露地」は清らかな世界である

「露地」は庭ではありますが、茶室に進んでいく特別の通路で、そこにはうっそうと木が茂っています。

ポルトガル人のロドリゲスが執筆した『日本教会史』という本には利休の時代の様子が詳しく書かれていて、お茶を研究する上で一番大事な資料ですが、その中に利休時代の茶人たちが、自分たちの世界を「市中の山居」と呼んでいたことが出ています。市中つまり露地の外は俗界なのですが、一歩露地に入ればそこには別世界の山住まいの趣があったということです。

仙境＝清らかな世界はどこにあるかと考えた時、当時の人々は、一つは海の向こうに、もう一つは山の中にあると考えていました。

海の向こうに別の世界があるという考え方は、日本の仏教にも、南方の仏教にもありますが、観音様の浄土は海の向こうの補陀落山にあるという思想です。

栃木県の日光を例にとってみますと、中禅寺湖が海で、海の向こうにある男体山が補陀落山で、そこに観音様の浄土があるというのが中禅寺湖と男体山の景観です。

京都の西本願寺にある飛雲閣でも同じ景観が見られます。飛雲閣は池の中に建っていますから、池の向こうに別の世界があると見立てているのです。

もう一つは、山の中に入っていくと別世界があるという思想です。永平寺や高野山では山の中にお寺がありますが、ここにも俗世間を離れて聖なる場所に入っていくための通路が「露地」であるという思想に立っています。

千利休は「露地」の風情はどういう風に作つたらいいかと聞かれて、「檜のはのみじぬからにちりつもる奥山寺のみちのさびしさ」という歌を引用しました。

「かしのは」は紅葉しないで落葉するような風情もない木です。そのさびしい道はおくの山寺にお参りするための道で、その道のさびしさが「露地」の風情であって欲しいという歌です。

つまり「露地」は、この世から別世界にいくための気持ちが変わる大事な場所であると言っているのです。



露 地

「手水」(ちようず)で身を清める

「露地」に入ると手水鉢が置かれていて、そこで手を清め、口を清めて中に入りますが、それは清めないと身についている穢れが境内に持ち込まれてしまうからで、日本人は身を清めることを非常に意識します。

その清めに一番いいのが塩で、大相撲でも清めの塩をまくことはよく知られています。

塩の次に、清めで大事なものは水です。

水は日本の食文化だけでなく、日本の生活文化の中で非常に大事なものです。

日本には、「いやなことを水に流す」という言葉もありますが、「水に流す」「穢れを流す」「手を洗う」「顔を洗う」「体を洗う」という形が私たち日本人の生活文化で、その一つが「手水で身を清める」ことです。

だから、茶会では、まず、亭主が「手水」そのものを清め、客は「露地」に入ったら、亭主が清め終わった「手水」の方に次々と進み、手と口を清め、茶室に入ります。清らかな人間だけが茶室に入り俗世間から離れることが、「露地」と「手水」に象徴されているのです。



つくばい

「廻り口」には許された者だけが入れるという意味がある

茶室には「廻り口(にじりぐち)」という小さな入口があります。高さは60センチメートルくらいしかありませんから出入りするの大変です。

しかし、茶室にこのような不便極まりない狭い入口が設けられていることには、許された者だけが入れるという意味があるのです。小さな入口を通り茶室の中に入ると、茶室の中はこの世と違い、皆平等で、老若男女、身分、格式を超えて、すべて人間は同じで、世俗の名前は名乗らないという約束になっています。

茶人は半僧半俗のお坊さんである

お茶の先生は、宗(そう)という字を一字入れた茶名をもらっていますが、これは家元「表千家宗左、裏千家宗室、武者小路千家宗守」の宗の字をもらって弟子になったことを示しています。

家元の名に宗の字が入っているのは、家元が大徳寺に入り在家のまま得度して法名をもらい、その法名が茶名になっているからです。ですから、茶名を名乗ることは、得度した言わば半僧半俗のお坊さんということで、これが茶人の心得にもなっています。

また、男性のお茶の先生は墨染めの「十徳(じつとく)」という独特の羽織を着ていますが、これも既に俗人ではないということの意味しており、茶室の中に入ることとは俗世界の常識を捨てて茶の世界に入り込むということなのです。

「炭手前」には火を清めるという意味がある

客が茶室に入ると亭主は客の前で炭をつぎます。これが「炭手前」です。

人間が他の動物と違う存在になった大きな分かれ道は火を使うようになったからです。

人間は火を使うことで、食生活が変わり、夜の生活ができるようになり、照明を使うことで野獣から身を守ることができるようになり、寒いところでも生活で来るようになりました。

このように火は人類の誕生の大きな契機になっていて、そのため火に対する信仰は世界中どこにでもあります。ゾロアスター教がそうだし、日本でもいたるところで火祭りが行われていて、聖なる火を大事にしています。

京都の八坂神社の初詣では「おけら火」を火縄にもらい、それが消えないようにくるくる回しながら家に持ち帰って、「おけら火」という清らかな火で元旦の雑煮を煮るということも行われています。

お茶の世界でも、「炭手前」には火を清めるという大切な意味があります。客に火をつぐところを見てもらうことにより、火が清らかであるということを確認してもらい、「炭手前」を通して、同じ釜のお湯で一緒にお茶を飲むという一味同心の集まりであるということも確認しあっているのです。



炭手前

「懐石」の精神と作法

「炭手前」が終わると次にお膳が出ますが、この食事が「懐石」というお茶の料理で、一汁三菜の家庭料理です。この「懐石」はお膳がたくさん出るおもてなし料理とは違い、お菜は最大3つ、汁は1種類です。家庭で普段食べているそのままのものを皆さんに食べていただくというのが「懐石」の精神なのです。

食事が終わりますと、その後で吸い物と八寸が出ます。これは酒の肴で、お酒をもう少し飲んでいただきたいということで、お酒を飲むために出されます。吸い物と汁はどこが違うかといいますと、お酒と一緒に飲むのが

吸い物で、ご飯と一緒に飲むのが汁とされています。このように、「懐石」には、我々が失ってきた作法や食文化がいろいろ残っています。

例えば、私たちはご飯をあまり食べなくなりましたが、昔の人はご飯をたくさん食べ、お替りするときには、ご飯を一口残してお替りするという作法がありました。

「懐石」にも、必ず一口残してお替りをし、三膳食べるという作法があります。

また和食では、昔はご飯と味噌汁のお替りしたのですが、いまは味噌汁のお替りはしなくなりました。

「懐石」では、今でも汁替えといって、必ず汁のお替りをするをしています。

食事が終わりますとお菓子を食べて前半が終わり、休憩に入ります。

濃茶と薄茶をいただく

休憩が終わると案内があり、再び茶室に戻り、濃茶、薄茶をいただきます。

濃茶は、ポタージュほどの濃さでどろっとしていて、ゆつくりと練り上げていく感じでたてるものです。

最近の濃茶は濃いめになってきていますが、昔の茶人の本によると、薄茶は泡をたてるから、左手でお茶碗を押さえないとお茶をたてることができませんが、「濃茶は左手を添えずに立てればよい」と書いてあり、茶碗を押さえずなくてもいくらいに柔らかくゆるいものでした。



濃茶

「濃茶」の廻し飲み

濃茶は「廻し飲み」という独特の飲み方をします。

茶碗を隣の人に渡し、隣の人は渡された茶碗で飲むのですが、なぜこのような飲み方をするかといいますとそれはお酒の飲み方のまねで、お酒の巡杯と同じです。

かつて、武家の酒宴では一つの杯が主君から家臣へと廻され、皆が同じ盃に口をつけて酒を飲み、言わば主従の固めの約束をしたということにならっているのです。

日本人は箸や湯飲みのような唇に触れる物に対しては潔癖なのですが、この潔癖なところに入り込んでしまうと他人でなくなるという意識が生まれます。その典型が結婚式の三三九度で、新郎新婦がはじめて杯を巡らせることにより夫婦の契りができるとされています。

茶の湯は日本人の生活に密着した大切な文化

このように、「茶の湯」は、ただお茶を飲むだけでなく、その中に「清め」という日本人の古い時代からの感覚、「この世から別世界に入っていく」という日本人の精神世界、「狭いところを潜り抜けると生まれ変わる」という信仰、「火を共有する文化」「食事を共にすることによりお互いを理解しあう人間性」、そのような日本人の精神世界がいろいろと含まれています。

床の間や畳の部屋もなくなり、正座する機会もほとんどなくなるなど、日本人の生活様式がすっかり変わってしまった現代にあつて、「茶の湯」にはかろうじて、日本の生活文化のいいところがきちんと守られ、残されています。

だから、小さい時からこういう「茶の湯」の世界に触れていけば、将来、その人の生活の幅も広がっていくだろうと思うのです。

茶の湯という日本独特の文化は、単なるお点前や作法ではなく、もっと日本人の生活そのものに密着している大切な文化であるということを申しあげて今日の私の話を閉じたいと思います。

平成27年度 一般社団法人茗溪会 公益・共益・広報等 年間行事計画（案）

1. 公益事業

(1) 公開講座

① 東京地区

（その１）日時・講師等 6月20日（土）予定 藤原保明先生

（その２）日時・講師等 11月14日（土）予定 熊倉功夫先生

② つくば地区 共催 筑波大学、筑波学都資金財団

（その１）日時・講師等 9月26日（土）予定 藤原保明先生

（その２）日時・講師等 7月18日（土）予定 西川綾子先生

*公開講座の報告（概要）等は、季刊誌「茗溪」に掲載の予定

(2) 顕彰（第14回）

① 対象 国内外で、継続して社会貢献（人材育成を含む）活動を行ない、その実績、成果を上げている団体、個人を対象とする。筑波大学学生・大学院生を含む。

② 対象者の選定

社会貢献活動に関しては、9月末日までに推薦候補者を、各地域組織、本部理事等を通じて公募し、平成27年10月に開催を予定する選考委員会で選考した結果について理事長の承認を得る。11月に行う顕彰式で該当者に「茗溪会賞」を贈る。一方、筑波大学生、大学院生については、学内におかれた選考委員会で選考した対象者について理事長から承認を得る。

③ 顕彰録 平成28年4月に顕彰録を作成して顕彰者及び関係者等に贈呈する。

(3) 地域組織等主催の公開講座、講演会の共催、助成

2. 共益事業

① 筑波大学生活動等への支援強化。

② 世代間や各地域組織等をつなぐ活動の充実強化。

③ 会員相互の交流の推進。グランドフェスティバル共催。

賀詞交換、暑中見舞い等名刺広告の季刊誌「茗溪」への掲載。（関連）フェロー対策

(1) 「追悼のつどい」の開催

脱・宗派として開催し、遺族、関係者を招き、逝去された会員等の遺徳を偲び、追悼顕彰。

(2) キャリア情報等の講座の開催

① 9月～3月の期間に4回程度、筑波大学、筑波学都資金財団との共催（大学中心）

② 3月中の3日間で「教職受験対策研修会」の企画、実施。

ただし、個人負担分の受講料のうち、一部を茗溪会が助成。

（検討）大学と茗溪会との連携による教職以外の分野の研修会開催の課題

3. 広報事業

(1) 季刊誌「茗溪」の発行 年4回

会員の期待に応える情報提供に努めるとともに、一般市民による茗溪会への一層の親近感も醸成し筑波大学等からの“知”の還元を図る。

(2) 茗溪会HP掲載内容等の充実

一般社団法人 茗溪会(第四回)

平成27年度 定時総会開催のご案内

☒ 日 時：平成27年 5 月21日(木) 午後 2 時30分から

☒ 場 所：茗溪会館二階「茗溪」の間

☒ 議 題：平成26年度事業報告、決算報告、平成27年度事業計画(案)予算(案)。
また、総会終了後、懇談会を予定しております。

平成26・27年度 一般社団法人茗溪会 代 議 員 一 覧

推薦支部	姓 名	卒年卒科・群	推薦支部	姓 名	卒年卒科・群	推薦支部	姓 名	卒年卒科・群
筑波大	森嶋 厚行	平5筑三情	文 科 省	三橋 浩志	昭63筑一自	石 川 久下	恭功	昭49教大体
筑波大	中井 央	平4筑三情	足 立	田原 章孝	昭51教大応数	福 井 南部	則雄	昭53筑体
附 属 校	日下部公昭	昭52教大東史	江 戸 川	奈良 隆	昭53筑体	静 岡 岩城	明	昭55筑一人文
図情橋会	森 茜	昭40図短特養	大 田	上村 肇	昭55筑一社会	静 岡 渡邊	憲章	昭55筑修環
図情橋会	遠藤 茂樹	昭51図短特養	葛 飾	渡邊 悟	昭62筑博農	静 岡 松井	和子	昭54筑体
図情橋会	寺沢 白雄	昭59図大図情	北	村松 広英	昭57筑一社会	静 岡 伊藤	宏	昭48院修体
図情橋会	大場 高志	昭51図短特養	江 東	浦部 利明	昭58筑修教	愛 知 鳥山	勇	昭48教大数
図情橋会	茂出木理子	昭60図大図情	江 品 川	真当 哲博	昭57筑二人間	愛 知 高須	勝行	昭51教大哲
北 海 道	沖野 隼夫	昭41教大体	渋 谷	竹村 恭一	昭56筑一自	愛 知 村松	利之	昭53筑体
北 海 道	大沼 寛	昭47教大体	新 宿	浅井 一郎	昭55筑一人文	愛 知 松浦	滋	昭46教大健
青 森	田代 高之	昭52教大武	墨 田	大井 俊博	昭53筑体	岐 阜 丹羽	章	昭53教大農
岩 手	栗林 徹	昭55筑体	世 田 谷	徳田 安伸	昭55筑二農	滋 賀 町田	登	昭47教大健
宮 城	蘇武 徳行	昭51教大武	台 東	柳 久美子	昭50教大体	三 重 丹羽	毅	昭56筑一自
秋 田	船木 賢咲	昭49教大武	中 央	中村 穎司	昭35教大國	京 都 塩見	均	昭47教大数
山 形	津田 浩	昭58筑一自	中 野	池田 浩二	昭57筑芸	大 阪 松本	秀範	昭53院修林
福 島	鈴木 弘文	昭46教大米	練 馬	竹内 秀一	昭51教大日史	大 阪 佐藤	隆一	昭26文二
茨 城	市村 博	昭50教大数	港	及川 良一	昭52教大倫	兵 庫 向田	茂	昭49教大日史
茨 城	郡司 丈児	昭53筑一人文	目 黒	高橋 基之	昭53筑一自	兵 庫 溝口	繁美	昭52教大教
茨 城	石崎 弘美	昭55筑一自	北多摩北	柴田 誠	昭55筑一自	奈 良 藤善	尚憲	昭33教大教
茨 城	広瀬 茂	昭57筑三社工	北多摩南	初見 豊	昭52教大農	和 歌 山 高田	晴美	昭50教大心
茨 城	仙波 操	昭50教大農経	西 多 摩	小林三代次	昭51教大英	鳥 取 有田	博充	昭41教大教
茨 城	武井 秀一	昭51教大化	八 王 子	小島 和雄	昭36教大農	鳥 根 松本	弘光	昭46教大体
茨 城	高瀬 宏樹	昭55筑一自	町 田	久保 淳	昭56筑体	岡 山 長尾	隆史	昭55筑体
栃 木	宇田 貞夫	昭52教大応数	神 奈 川	清水 進一	昭43教大数	広 島 大辻	明	昭47教大体
栃 木	上岡 利夫	昭53筑一自	神 奈 川	嵐 實	昭29教大農化	山 口 鍋井	邦久	昭38教大体
群 馬	栗田 裕	昭53筑一人文	神 奈 川	小山 和夫	昭33教大教	徳 島 木村	潤	昭46教大國
群 馬	佐藤 功	昭55筑一自	神 奈 川	京野 勝	昭40教大農化	香 川 鶴岡	英作	昭57筑二生
埼 玉	荒井 修二	昭25理三	神 奈 川	佐々木悦子	昭46教大体	愛 媛 中村	光宏	昭55筑体
埼 玉	相澤 鎮夫	昭27理三	神 奈 川	本木 幹雄	昭50教大健	高 知 下坂	速人	昭53筑体
埼 玉	奥谷 多作	昭34教大工芸	神 奈 川	矢野 正人	昭53院修農経	福 岡 奥山	訓近	昭53教大木工
埼 玉	矢嶋 章司	昭35教大体	山 梨	根岸 洋一	昭54院修体	佐 賀 野中	通兼	昭53筑体
埼 玉	前島 富雄	昭47教大木工	長 野	平野 吉直	昭57筑修体	長 崎 浦下	悦二	昭50教大武
千 葉	山田 哲弘	昭57筑修理	長 野	竹村 和也	昭57筑三基	熊 本 蔵田	勇治	昭52教大体
千 葉	黒須 健治	昭47教大応数	長 野	堀金 達郎	昭52教大応数	大 分 渚	洋行	昭53筑体
千 葉	青木 寛	昭48教大武	新 潟	永井 成一	昭41教大法政	宮 崎 児玉	洋一	平2筑三社工
千 葉	嘉村 茂邦	昭50教大物	新 潟	中島 郁雄	昭53筑体	鹿 児 島 篠原	良司	昭52教大國
千 葉	西川 和樹	昭59筑一自	富 山	川腰 善一	昭56筑三社工			



茗溪・東西南北

北京茗溪会

北京茗溪会は、筑波大学中国事務所の田中名誉教授をはじめ、中国から筑波大学へ留学した経験のある諸先輩や、中国に在住している日本の公務員や企業先から派遣されている筑波大学卒業生と、その関係者によって組織されている。いわゆる日本国内での「地域組織等」の一つです。

2014年や2015年の活動報告あるいは元旦に万里の長城での「初日の出」また、開催した懇親会等の様子をご紹介します。

活動報告

2014年

9月19日（金）、於…北京茗溪会

(1) 筑波大学中国事務所 田中所長報告

・筑波大学中国事務所の役割は、次のとおり

① 中国の優秀な学生に筑波大学を紹介すること

② 筑波大生の中国への留学支援

③ 地域茗溪会の支援

・具体的な活動として、中国の高校への出前授業、中国学生への日本語教育プログラム、筑波大学からの短期留学生プログラム等

・一方で現在、筑波大学には1,000人の中国人留学生が在籍するが、中国に在籍する筑波大学生の数は35名であり、そのうち、北京はゼロである。

この要因は、他大学に比較し筑波大学生にインターシップを紹介するシステムが確立していないことである。是非、北京茗溪会にご協力をいただきたい。

(2) 北京茗溪会強化のための施策実施

・幹事組織を2名から4名に増員した。（大野1986年入学、山本1992年入学、包1998年入学、徐2002年入学）

・名簿の整備を行った。

・フリーペーパー（ジャピオンなど）での会員募集を実施。

2015年の活動予定

(1) 【大花見大会】 3月28日（土）午後

・筑波大学構内で体験した花見を再現。歌あり、芸あり、ご家族も是非、一緒に参加していただきたい。

(2) 【暑気払い】 7月10日（金）夕刻

・暑気払いに加えて、歓迎会を実施の予定。ミニ勉強会（テーマ未定）も検討中。

(3) 【総会／忘年会】 12月15日（火）夕刻

・年間活動実績、次年度活動計画などを報告した後、忘年会を開催予定。

「北京茗溪会」2014年度総会

とき 平成26年12月15日（月）

ところ 懷石料理 番屋

北京茗溪会の総会を「決起集会」と名うって開催しました。齋藤会長・外務省（筑・第一社会・79年卒）の挨拶に始まり、懇親を深め、最後は桐の葉で締めました。

筑波大学は、現在1,000人の中国人留学生が学び、過去には中国初代総書記の陳独秀先輩をはじめ多くの人材を輩出しており、今後も、中国で最も優秀な大学の卒業生の会の一つとして、その名に恥じないよう精進してまいります。

幹事長 大野周之…

JX日鉱日石エネルギー（株）（筑・農林90年卒）

日時 2015年1月24日（土）

場所 光明飯店 徐園宮（中華料理）

筑波大学中国事務所長・田中名誉教授の来燕に際しまして、歓迎の懇親会を開催しました。

齋藤会長（78年卒）の開会の辞に続き、田中名誉教授からご挨拶がなされました。

懇親会は様々な話題に至りましたが、特に北京へのインターンや留学を希望する在校生へのサポート体制作りとその重要性を大いに議論しました。

北京茗溪会の今後の貢献と活躍への期待の言葉を田中名誉教授より頂戴し閉会となりました。

北京茗溪会幹事 徐 正一

（2005年 工学基礎学類卒）

「初日の出ツアー」

元旦は、万里の長城へ家族連れ「初日の出ツアー」を企画しました！夜明け前に八達嶺の小高いピークまで皆で登り、東の山並みから登る初日の出を拝みました。

PM2.5の北京市内とは異なり、空が刻々と七色に変わっていくのがわかり、非常に美しい初日の出でした。

初日の出を観たあとに、持参した日本酒の熱燗で乾杯！ マイナス10度近い山頂で飲む熱燗は身体に沁みました。

今年もきっと良いことがあるに違いないでしょう！

会員 山本 敬（株）和醸（1997年工学システム学類卒）



筑波大学は今

学長主催新春講演会 「とことん知りたいノーベル賞」を開催

1月14日に、ノーベル賞を主催するノーベル財団の理事長で、高名ながん研究者であり、本学グローバル教育院の教授でもあるカール・ヘンリック・ヘルディン博士をお招きし、筑波大学学長主催新春講演会「とことん知りたいノーベル賞」を開催しました。

「ノーベル賞と科学の発展」と題した講演では、科学の発展においてノーベル賞が果たしてきた役割とその歴史を興味深いエピソードを交えて話されました。また、講演に続いて行われた永田恭介学長との対談では、永田学長が、ノーベル賞の舞台裏や科学研究のあり方について、軽妙な話術で切り込みました。

この講演会では日英の同時通訳と日本語の要約筆記の情報支援を提供。定員150名の会場は学内外の聴衆でほぼ満席となりました。



永田恭介学長とカール・ヘンリック・ヘルディン教授

トルクメニスタン大統領特別講演会を開催

3月13日、トルクメニスタンのグルバングリ・ベルディムハメドフ大統領（Hi. E. Mr. Gurbanguly BERDIMUHAMEDOV）による特別講演会および筑波大学名誉博士号授与式がパレスホテル東京において行われました。

特別講演会には、本学や他大学の学生・教職員、研究機関の方々など総勢330名が参加。講演終了後、ベルディムハメドフ大統領に

対して、本学名誉博士号の学位が授与されました。学位を授与されたベルディムハメドフ大統領は、謝意とともに、筑波大学との協力を通じた教育・研究成果への期待などを述べました。



グルバングリ・ベルディムハメドフ大統領（右）

全国大学ラグビー選手権大会 2年ぶり2度目の準優勝！

ラグビーの第51回全国大学選手権大会が開催されました。本学ラグビー部は、主力選手の負傷離脱もあり、対抗戦5位で臨んだ全国大会でしたが、関西学院大、大東文化大、明治大を次々に撃破。

1月2日に行われた準決勝では、東海大の厳しい守備に苦しみ、残り6分で3-6と追いつめられましたが、2トライ2ゴールを決める猛反撃で、17-16と劇的な大逆転勝利を収めました。

1月10日の決勝戦では、2年前も優勝を阻まれた帝京大学に破れ、2年ぶり2度目の準優勝となりました。



永瀬貴規選手がグランドスラム東京で連覇達成！

柔道・グラウンドスラム東京で永瀬貴規選手（体育専門学群3年）が、男子81キロ級で2連覇を果たしました。

この大会での同階級の連覇は史上初の快挙です。



写真：アフロスポーツ

グランドスラム東京2014男子81kg級の決勝戦

34回島津賞を受賞

重川秀実教授（数理工学系）が島津賞を受賞しました。世界で初めて、原子レベルの空間分解能をもつ走査トンネル顕微鏡と、1,000兆分の1秒の現象をとらえられるレーザー技術を融合した革新的な顕微鏡技術を世界に先駆けて開拓したことが評価されました。

第25回南方熊楠賞を受賞

井上勲教授（生命環境系）が南方熊楠賞を受賞しました。藻類の細胞生物学から分類学におよぶ幅広い研究で顕著な業績を上げたことが評価されました。

第56回本多記念賞を受賞

宮崎修一教授（数理工学系）が第56回本多記念賞を受賞しました。チタン系形状記憶合金の超弾性特性の実現により工業と医療のほとんどの産業分野で実用化を大きく進展させ、合金の基礎学問を確立し、その後の材料開発にも世界に先駆けて貢献してきたことが評価されたものです。

岩田 芳子	岩田 雅子	岩崎 正子	岩崎 充益	茨木 聖子	井上 孝	井上 寛	稲葉 貴弘	稲垣 正浩	稲垣 次男	伊藤 信義	伊藤 義博	市村 操一	石渡 和実	石原 麻理恵	石浜 義晴	石田 正次	石嶋 静一	石川 利一	石井 嘉子	石井 勝	池田 齊	池川 敏幸	井口 裕夫	飯田 文吉	飯田 稔	荒木 涼子	安部 一郎	阿部 謙一	足立 進	麻生 富士雄	浅野 克己	浅野 義尋	浅島 誠	朝倉 知子	秋山 尚功	赤羽 新一	赤羽 勝雄	青山 和義	相沢 利一	
柿沼 澄男	恩田 真紀子	折笠 常弘	小野 喬	落合 勇一	織田 是生	小沢 操	奥山 専逸	奥田 繁雄	奥井 保正	荻野 治雄	小川 栄一	岡本 裕之	岡村 雅彦	岡村 昭二	岡村 奏	岡田 毅	岡田 弘子	大本 武児	大浜 あつ子	大沼 寛	大塚 芳郎	大谷 悦久	大坂 泰	大久保 昭教	大神 友明	大岡 久恵	大泉 千恵子	大石 英幸	遠藤 文子	江本 秀明	海老原 利子	榎本 喜美夫	栄沢 幸二	宇野 彰	内田 雅寛	内田 悌二	上田 マナツ	岩村 雅朗		
国分 康孝	合田 浩之	小池 生夫	小池 一郎	軍司 真幸	倉持 三郎	熊倉 正司	久保田 誠二	櫛部 淨義	日下部 公昭	箕輪 裕美子	木下 匡弘	北原 明	北野 日出男	北浦 健生	岸本 弘子	岸川 章修	菊地 隆男	木内 侃	川本 太郎	河鍋 騷	川島 輝雄	川崎 順一郎	川口 千代	鴨下 礼二郎	亀井 洋司	神谷 和行	上条 博子	上川路 紀久男	加部 雅之	蒲木 みゆき	金本 晋也	兼田 昌尚	加藤 敏	加藤 昭	勝又 宏	片岡 勉	片岡 曉夫	梶川 和子	鹿兒島 雅志	
庄司 一子	釈 恵定	下山 晃	下山 寅雄	清水 毅	島谷 弘幸	志甫 英一	渋谷 精一	柴田 昭二	柴田 淳	柴田 俊和	柴崎 敏	塩原 修平	塩井 敏治	佐原 傳三	眞田 久	里見 弘	佐藤 三夫	佐藤 文夫	佐々木 徹悟	佐々木 敏恵	笹川 和輝	相良 健二郎	坂田 信久	五月女 武治	佐伯 重幸	西東 秋男	斎藤 隆	斎藤 光政	今 春敏	小山 弘毅	小俣 幸嗣	小原 なをみ	小林 正治	小林 慧歩	小林 明子	小成 幸男	後藤 恒顕	児玉 典子	小島 敏昌	
田中 睦夫	田中 正造	立山 隆治	立石 秀樹	田瀬 則雄	武部 尚美	竹之内 恒男	竹之内 保	武田 良実	武田 伸一	武田 恵子	武井 敏男	竹居 高嶺	武井 一郎	滝田 順子	瀧澤 文雄	瀧 弘之	田河 達夫	田上 修	高原 将	高橋 康明	高橋 誠	高橋 浩司	高橋 美智子	鷹野 誠三	高野 だいわ	高田 雅博	高瀬 春雄	高崎 修	高木 ナホ	十河 正己	関島 昭三	清野 早苗	砂子 壽弘	鈴木 奈保子	鈴木 泰全	鈴木 秀雄	杉山 浩一	杉本 正	新堂 庄二	
仁尾 武博	奈良 昭男	浪越 信夫	那須 美智	中山 義活	中山 貞夫	中山 芳典	中谷 慶子	永村 順一	中村 通男	中村 伸夫	中村 以正	永峰 薫	永田 友市	中園 靖雄	中嶋 正躬	永窪 啓治	長尾 進	永井 實	内藤 輝夫	鳥飼 修	鳥海 玲子	豊崎 永英	富田 磨紗子	戸邊 好郎	徳永 澄憲	時松 茂親	寺田 航太	寺島 明道	寺尾 壽幸	鶴巻 勝夫	都築 功	津田 房枝	帖佐 寛章	千葉 泰博	田部 滋	種田 一夫	田中 信一	田中 禮三	田中 晋一郎	
牧野 健士	本宮 健次郎	堀江 澄男	堀井 啓幸	星野 敏男	星野 保雄	古澤 邦夫	布留川 厚	降旗 勝信	藤原 章司	藤善 尚憲	福田 啓子	福島 端義	廣橋 義敬	廣瀬 俊将	廣瀬 昭夫	平松 広太郎	平野 俊雄	平野 真理子	平野 靖史	平根 厚	平田 雅彦	平田 精一	日比野 文一	東 勇介	春成 幸男	原田 拓二	林 一六	埴 博	畑中 恒夫	畑澤 潤一	橋本 直美	野村 武男	野々宮 徹	野崎 良寛	根本 博	根立 俊樹	額賀 俊光	西山 弘子	西村 伸平	
谷中 齊	安田 直次	安田 昭子	安井 一郎	屋井 征雄	師岡 文男	森永 滉	森田 信義	森 米二	森 俊男	望月 善次	最上 淑子	村山 勤治	村田 茂	村田 芳彦	牟田 清	宮本 みち子	宮下 弘子	宮腰 東海	宮内 完吾	湊 勉	皆川 幸嗣	水本 節生	水野 民男	水谷 義郎	三澤 義一	三浦 幹夫	松元 美明	松本 旭	松本 正人	松村 公仁	松原 達哉	松下 繁幸	松下 繁雄	松沢 徳雄	松里 繁義	松川 彰	町田 登	益子 朗	正木 隆	
現在、合計して 五口以上「茗溪フ ェロー」にご協力 いただいた完納会 員の皆様に感謝状 と記念バッジを御 送りしています。																																								
渡辺 功	渡辺 和男	渡邊 浩之	渡辺 隆明	渡部 秀一	脇坂 久	吉野 弘	吉野 良一	吉田 昭久	吉田 俊純	吉田 潤	吉澤 敏武	芳沢 要	吉川 正美	横山 幸三	横田 宏之	結城 勝夫	山本 章雄	山本 昌邦	山本 敬三	山西 哲郎	山田 大三	山崎 均	山崎 俊輔	山崎 純子	山岸 徳治	山岡 武邦	山内 研二													

季刊誌『茗溪』夏号への 誌上交流広告掲載ご協力のお願い

茗溪会では、季刊誌『茗溪』1080号（平成26年正月号）から各地域・職域の会長・校長の皆さまに「年賀名刺広告」をお願いしたところ、多数のご応募をいただき、掲載してまいりました。

そしてこの頁を会員どうしの“交流の広場”として一層の充実を図るため、表題を「誌上交流広告」といたしました。次号(1086号)に『暑中見舞』の「誌上交流広告」を掲載いたしますので会員の皆さまには、下記の要項により、ふるって、ご応募下さいますよう、お願い致します。

記

◆掲載方法

季刊誌『茗溪』夏号（1086号）誌上
上段に「暑中お見舞い申し上げます。平成27年夏」のタイトルを標記致します。

◆掲載対象

茗溪会等の理事・監事・代議員、各地域・職域の代表者（会長・校長等）をはじめ、会員の皆さまにお願いします。

◆掲載内容

各地域・職域等であれば、組織者・代表者名を、個人であればお名前・住所・連絡先（電話番号・メールアドレスなど）・職名・卒業年・卒業学群（学部）・学類（学科）などから、スペースに入る範囲でお願いします。

◆掲載文の連絡方法

FAXまたはメール等で本部事務局宛にご連絡下さい。

◆掲載協力金

1件につき10,000円をご協力下さい。
協力金は本部事務局までご送金下さい。

◆原稿等の締切り

平成27年6月12日（金）

◆連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
茗溪会 事務局長 高野 力
TEL 03-3941-0136
FAX 03-3941-7674
E-mail info@meikei.or.jp

*印刷屋からゲラが出てまいりましたら、お送りして、確認していただきます。

会費完納会員の皆さまへ

平成27年4月15日

一般社団法人 茗溪会

理事長 江田 昌 佑

平成27年度『茗溪フェロー』 ご協力のお願い

茗溪会が新法人としてさらに発展・進化していくために、東京教育大学等前身諸学校から筑波大学にわたる多様な世代を結び、教育界だけでなく広く実業界に活躍する卒業生との地域・職域をこえた連携を強化することを目的として、「茗溪会拡充キャンペーン」を推進し、その一つとして会費完納会員を対象として「茗溪フェロー」を創設いたしましたところ、一昨年は1,300人を超え、合計約600万円、昨年は1,000人を超え、合計約460万円のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

完納会員の皆さまには、35年間にわたり茗溪会へのご支援をいただき、これまで本会を支えていただきましたことは、誠に感謝に堪えません。

茗溪会は筑波大学や在学生、さらに新しい卒業生に一層の支援をすることは勿論ですが、本会の老・壮・青の力を集めて大きく発展することを期しています。そのためにも、皆さまには本年度もご協力をお願い申し上げる次第でございます。

「茗溪フェロー」の募集要項

既に会費を完納した会員の皆さまに呼びかけて「茗溪フェロー」として皆さまからの寄付を仰ぎ、今後の茗溪会の運営に寄与していただくことを目的といたします。

- 1 寄付金 1口 2,000円／年間
- 2 支払い方法 口数の選択 1口以上
同封の払込取扱票に所定事項をご記入の上、
郵便局窓口またはATMから送金してください。
会員番号は必ず記入してください。
(お送りした封筒の宛名に記載してある8桁の番号)
- 3 納入口数に応じて感謝状及び記念品を贈呈するとともに、季刊誌『茗溪』誌上にお名前を掲載いたします。

茗溪学園だより

模擬国連開催 SGHアソシエイト

茗溪初の模擬国連「MEMUN1 (Meikai English Model United Nations)」が、2月10、11日の2日間に渡って開催されました。中学2年から高校2年までの29名(大使役として25名、その他のスタッフとして4名)が参加しました。

開催のきっかけは、高校2年生の2名が、SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)アソシエイトの活動の一環として、昨年11月から12月にかけて、筑波大学の学生と大学院生向けの模擬国連の授業に参加させていただき、筑波大学での模擬国連に「大使」として参加したことでした。その後、この2名の生徒が、模擬国連の活動を茗溪内にも広めたいと、全校集会で呼びかけを2度行い、オリエンテーションを開き、4回の講習会を開催するなど、すべてを自分たちで企画・実行して、この本番へと結びつけました。参加を申し出た生徒の中には、以前に住んでいたことのある国の大使をやりたいなど、参加に対して積極的な様子が随所で見られました。

当日は、筑波大学で模擬国連を担当されている木田剛先生(筑波大学人文社会系准教授)にもご来校頂き、また筑波大学での模擬国連議長を務めた大学院生で、チリからの留学生のFelipeさんが議長をしてくださいました。Felipeさんは議長をしながら、初めて模擬国連を体験する本校生たちに、英語で分かりやすく、いろいろな場面で各国の大使役が行うべきことなどを教えてくれました。特に、「模擬国連は英語を話



すべて英語で活発な議論が交わされた。
(本校会議室にて)



決議案採択後、自分が担当した国の国旗をもって記念撮影



顕微鏡の使い方を教わり、いよいよウニの幼生の観察が始まった。
(本校生物実験室にて)



物理の授業(手前の生徒達)は運動の表し方、数学(ドア越しに見える教室)は数量を表す単位について考える授業であった。
(TISにて)

すことや仲間を作ることもできるが、それが最終目的ではなく、人類が直面する問題にいかに関与策を見つけていかという、『人類の挑戦』こそが模擬国連の目的なのだ」というお話には、皆感銘を受けていました。締めくくりは、今回のテーマである「貧困の撲滅」に対して、教育と貧困という2つの委員会から出された決議案を採択して会議を終了しました。

この活動では、筑波大学で模擬国連の授業を受けて刺激を受けた生徒達が行動を起こし、それに応じた生徒達が新たな動きを作り、生徒達だけでもここまでできるということを示してくれました。皆、模擬国連を無事終えて大きな達成感を味わえたようで、早速次の日には、企画した委員の生徒から、今回の会議の報告書と次回大会のMEMUN2の企画書が提出されました。今後さらに模擬国連に関わって、新たな波が生まれることが期待できます。

また、筑波大学の木田剛先生、Felipe Sandoval様には本当にお世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

SSH 茗溪-TIS交流

SSH第3年次評価では、文部科学省より最上位の評価をいただきましたが、コメントには、「地域連携や国際交流の更なる充実」という課題が示されていました。そ

こで、地元のTIS(つくばインターナショナルスクール)との連携活動として、理科実験および理数授業の交流を企画し、この2月10日に実施いたしました。この企画は、かねてより双方がやりたいと思っていたのですが、やっと日程と内容の調整が付き実現したものです。

交流内容は、互いに同年齢(中学1、2年生)で同数(13名ずつ)の生徒を選抜し、茗溪学園では理科の実験を、TISでは、理科と数学の授業を受けるというものでした。まず、TIS生が本校まで移動してきて、生物実験室で、顕微鏡の使い方を学び、ウニの幼生とゾウリムシの観察をし、それをスケッチする実験でした。昼食後、TISに移動して、TISの外国人教師による物理と数学の授業を受けました。

開会のセレモニーの時から生物実験室に案内されて顕微鏡の使い方説明を受けている時間帯までは、緊張していることもあり、互いに話しかけるきっかけがつかめない様子でしたが、観察が始まると次第に打ち解け、英語と日本語をミックスしたコミュニケーションが始まりました。TISでの数学の授業を終えた本校生徒の感想は、自分が経験してきたことのない展開や考え方が示され、とても面白かった、というものでした。参加したほとんどの生徒が、有意義な体験ができたと話していました。

第30回

教職受験対策研修会から

教職を希望する筑波大学生に対して、本会と財団法人筑波資金財団が主催する「教職受験対策研修会」が3月9日(月)から11日(水)までの三日間「筑波研修センター」で開催されました。参加者は46名でした。

【第一日】

＊開講式には本会理事・学都資金財団理事長の田中正造氏(36教大健)が主催者を代表して挨拶され、来賓として筑波大学キャリア支援室長守屋正彦氏(51教大芸術53院修美)筑波大学学生部就職課長久保田優氏から励ましのお言葉や、いかに全国の教育関係者が筑波大学の卒業生に期待しているか等のお話を伺いました。



◆「桐剣会」総会及び稽古会

と き 平成27年2月11日(水)
ところ (稽古会) 都立板橋有徳高校剣道場
(総会) 割烹「春日」東武練馬店

筑波大学の開学間もないころ、教育大で専門のクラブから自立し剣道を愛好し続ける文理系OBと、志を同じくする筑波大学体育会剣道同好会員とが一緒にOB・OG会を作り、剣の交わりを持とうと「桐剣会」が誕生、今年で35周年となります。

会員数は400名を超え、今回の総会・稽古会ともに、現役の学生を含む40名の会員が集いました。(事務局：昭59年筑波大・社工卒 酒井成幸)

＊講義Ⅰ「教員採用試験の分析と対策」



清水進一氏(42教大数学)
教員採用試験の概要と受験

対策として、公立学校、私立学校の採用試験の概要を詳細なデータに基づいてお話いただき、その受験対策として、筆記試験・論文文・面接・模

擬授業について指導していただきました。

各都道府県別の教科・科目別の募集人数・応募者・合格者数など受験生には貴重な資料も提供されました。

＊採用試験合格者体験発表(今年度の合格した先輩)

①千葉県 中高(国語) 岐阜県 高校(国語)

②東京 私立高校(地歴) 明石萌子さん(人文学類)

③茨城県 高校(数学) 安納 俊さん(数物研究科)

④静岡県 高校(数学) 小林千紗都さん(数学類)

＊論文作成については事務局の高原が要点を説明。

＊論文作成 2題のうちから1題を選択。70分で作成。



安納 俊さん



佐々 詩織さん



小林千紗都さん



明石 萌子さん

「各都道府県教育界の諸先輩にお願い」

各都道府県の採用試験情報や教育行政の最新情報について先輩方を訪ねて教えるいただくように指導しています。教員志望の筑波大学生から相談がありましたら、論文文の指導も含めて、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。(研修担当)

【第二日】

＊講義Ⅱ「我が国の教育の今日的な課題」



佐藤 徹氏(46教大経済)

教育再生実行会議のこれまでの提言の概要を丁寧な説明していただきました。

ついで今日の教育改革の背景についてお話があり、最後に「筑波大学の卒業生は全国どこの地域で教員になっても一目おかれる」とお話がされました。

＊個人面接の練習(一人ずつ) 学生宿舎管理事務所

長の武井秀一氏(51教大化学) 前事務所長の高野大次郎氏(40教大体)と、高原が面接官となり実施を致しました。安納さんを除く体験発表の三人に加えて、河

本ゆめかさん(長崎県 私立高 国語)宮原修さん(埼玉県 高校 地歴) 渡辺眞伍さん(東京 私立一貫校

理科)がチューターとして加わり、受験生に個人面接の答え方等をアドバイスしました。

＊集団面接の練習(受験生数人のグループに対して) 武井秀一氏・高野大次郎氏・高原が面接官となり集団

面接を実施しました。

＊集団討論の実演 6人のチューターに、明日実施する集団討論の実演を行ってもらいました。

【第三日】＊集団討論 数人で用意されたテーマについて70分間ほど討論しました。まず、各人が与えられた

テーマについて意見を述べ、討論に入りました。

ほとんどの参加者が初めての経験でしたが、議論は白熱し、良い体験であったとの声が聞かれました。

＊論文指導 初日に書いた論文を班ごとに分かれて、まず本人が音読し、意図するところや考えを述べ、指導者からのコメントを聞くという形式で実施しました。

参加者からは「大変 役にたった」との声が多かった。その後、閉校式を行い、研修会を終了しました。

若溪会事務局 高原 将(38教大東史)

追 悼 録 (敬称略)

佐田 彊 15・文四 27・3・18 長男 佐田 徹
〒166-0015 杉並区成田東1-25-2
太田 進 16・文二 26・12・6 長男 太田 悟
〒437-1305 掛川市山崎60-27
木名瀬信也 16・文三 27・1・4 長女 新居なおみ
〒350-1326 狭山市つつじ野4-17-809
土田 利丈 16・体一 26・12・28 妻 土田 一枝
〒920-0906 金沢市十間町9-5D-905
綿貫 實 16・文図講習所 27・2・2 長女 田村百合子
〒285-0905 印旛郡酒々井町東酒々井3-3-221
工藤 綏夫 21・大倫 27・1・17 長女 横山 素子
〒010-0874 秋田市千秋久保田町5-92
田中 洋二 18・文二 26・12・5 長男 田中 信哉
〒441-8027 豊橋市緑町149-1-105
米山勝太郎 18・理二 27・1・1 長男 米山 弘之
〒188-0012 西東京市南町3-10-22
永田 友市 19・文二 27・3・4 長男 永田 孝夫
〒472-0026 知立市上重原町村上28
深澤 擴 19・臨生 27・1・21 長男 深澤 厚
〒390-0312 松本市岡田松岡339-14
大西 敏春 22・文四 27・1・15 長女 本屋敷典子
〒538-0035 大阪市鶴見区浜2-2-32
梶原 和夫 19・体専 26・11・11 長男 梶原 吉和
〒669-1547 三田市富士が丘3-8-5
芳賀 廣 20・臨教 26・9・23 妻 芳賀 静
〒963-8018 郡山市桃見台6-17
鈴木 八郎 20・体専 26・10・6 長男 鈴木 和則
〒180-0022 武蔵野市境5-17-18
小倉 幸春 22・文四 26・12・12 養子 小倉 久司
〒939-1335 砺波市鷹栖1083
菅野 宣 22・理二 26・12・30 長男 菅野 宣之
〒157-0071 世田谷区千歳台2-10-13
福井 明司 23・農教 26・12・20 長男 福井 純一
〒673-0402 三木市加佐向陽園995-60
小久保富男 23・理三 27・1・8 長男 小久保啓一
〒930-0005 富山市新桜町10-4-801
諏訪 雅珍 23・理三 26・12・28 妻 諏訪みつ枝
〒251-1131 藤沢市鶴沼藤が谷3-9-3
飯田 吉郎 24・大漢 27・1・6 妻 飯田 麗子
〒177-0041 練馬区石神井町1-3-3
矢嶋 房利 24・文二 26・10・26 長女 矢嶋まゆ子
〒261-0011 千葉市美浜区真砂2-15-5-C-506

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・ 遺族住所・氏名

高垣東一郎 25・理一 26・9・26 妻 高垣 恭子
〒263-0054 千葉市稲毛区宮野木町1625-30
篠田 久 25・理三 26・12・15 妻 篠田よし子
〒113-0021 文京区本駒込3-35-11
飯田 為明 26・文二 26・8・15 妻 飯田 侑子
〒156-0044 世田谷区赤堤4-37-11
志沢 達雄 26・文三 26・4・29 長男 志沢那緒人
〒285-0854 佐倉市上座469-102
北原 久夫 26・理一 26・11・28 妻 北原知恵子
〒380-0802 長野市上松4-4-13
森嶋 隆夫 26・農教 26・12・3 長男 森嶋 高志
〒112-0002 文京区小石川1-9-14-605
鳥越 昌雄 27・大化 25・9・3 長男 鳥越純一郎
〒156-0055 世田谷区船橋4-15-18-102
畠 忠夫 27・文四 25・11・30 妻 畠 秀
〒960-0102 福島市鎌田字一本松10-7
宮崎 道夫 28・教大農化 25・11・21 妻 宮崎 恵子
〒179-0074 練馬区春日町5-34-1
鷹野 良宏 29・教大教 26・10・9 妻 鷹野 松江
〒259-0122 中郡二宮町富士見が丘2-5-39
山口 三郎 29・教大化 27・2・5 二女 小泉 順子
〒241-0831 横浜市旭区左近山2-2-302 山口様方
山崎 武 29・教大健 26・8・24 妻 山崎 隆子
〒346-0106 久喜市菖蒲町菖蒲248-5
吉澤 靖 30・教大言 26・12・21 妻 吉澤 聆子
〒187-0042 小平市仲町386
山田 隆哉 30・教大化 26・12・8 妻 山田 倭子
〒270-0021 松戸市小金原6-7-6-503
吉備 健 31・教大哲 27・3・12 妻 吉備 斐子
〒337-0032 さいたま市見沼区東新井710-50-24-102
岡本 惇 32・教大植 26・11・3 長男 岡本 耕平
〒185-0036 国分寺市高木町1-23-1
平賀 正治 33・教大健 26・12・29 妻 平賀 眞弓
〒525-0057 草津市桜ヶ丘1-6-7
尾崎 仁三 34・教大地 26・10・13 妻 尾崎 慶子
〒610-0102 城陽市久世芝ヶ原131-35
小島 毅 43・教大健 26・2・21 妻 小島小夜子
〒490-1413 弥富市子宝2-121
高橋みさ子 45・図短図書館 26・12・23 夫 高橋 良一
〒204-0021 清瀬市元町2-5-4
松村 英二 01・筑体 27・2・20 妻 松村 朋子
〒192-0363 八王子市別所1-32-7-703

著書紹介

変容する社会と人間——実存のトポスを求めて

編著 河上正秀(42教大)・小林秀樹(平成6筑人文)

A5判 二二〇ページ 二、三〇〇円

出版社 北樹出版

本書は、編者のひとり河上正秀筑波大学名誉教授が代表をつとめる現代西洋倫理研究会において、約二年間にわたる発表とディスカッションを経た上で結実した論文集・教科書である。執筆者のメンバーは、筑波大学人文社会科学部研究科哲学・思想専攻において河上先生の教えを受けた西洋哲学・倫理学の研究者である。分野は哲学・倫理学中心であるが、生命論、科学技術論、美学、教育学、心理学など関連領域に跨って論を展開している。

近代的な人間観が大きく変容した現代において、近代的価値観を見直しながら、その変容をもたらした科学技術の有り様を論述した上で批判的に検討したり、現代を支えている価値観の妥当性を歴史的な文脈から探究したりしている。それは個の実存を問い抜く場を見いだす試みでもある。なお本書は専門研究の成果であるが、各章ごとに要約および関連するコラムが付されており、大学生向けの教科書としても編集されている。

鈴木康文(54筑一自然)

発達心理学

松原達哉編(昭27、東京高師 理科一類卒。昭40 東京教育大学 教育心理学研究科博士課程専攻卒。東京教育大学助手、助教授、教授。心理学博士。)

編集発行 丸善出版

連絡先 〒101-0061 東京都千代田区神田神保町二丁目十七番地

メー ル Ppumaruzen.co.jp/

本の大きさ全286頁 上製本 発行日 平成27年1月31日

目的 「健やかで、幸せな発達をめざして」

専門学校、短大、大学、大学院の教科書として、また、保育士・幼稚園教諭や小学校・中学校・高校の教員に参考になるよう編集した。発達心理学は、人間が受精してから死に至るまでの心理学の諸問題を研究する学問である。本書では、QOL(生活の質・人生の質)の視点から前半では発達に関する問題、性の問題、いじめ、不登校、心の病(精神医学問題)、自殺、発達の問題、虐待、トラウマ、激変するメディア環境などについて。後半では、胎児期から高齢期について具体的に説明している。

本書の特徴 これまでの常識をくつがえすような最新の知見も積極的に紹介している。各章末には、理解度が確認できる課題も用意している。

広報

筑波大学と本会の懇談会の開催

2月17日に筑波大学から阿江副学長（本会理事）清水副学長はじめ学群長・学類長・部長等28名が出席され、本会からは江田理事長、西川副理事長、高野事務局長以下6名が出席して、懇談会が開催されました。江田理事長の挨拶の中にあるように、この懇談会は30年前から存在し、情報・意見交換を通じて、筑波大学と茗溪会の連携を一層深めるための会合です。

清水副学長からは、筑波大学の学生活動に対して茗溪会が支援事業や顕彰事業として多大な援助をしていることに感謝の言葉が述べられました。特に筑波大学開学30周年の記念事業では茗溪会員からの1億5千万円の寄付により「総合交流会館」が造られ、同会館は茗溪会の寄付で造られたと言っても過言でないと述べられました。

西川副理事長、今年度の茗溪会の活動状況と筑波大学への支援（学生活動への支援、行事関係、茗溪会顕彰などで合計700万円）等について報告がありました。

意見交換では、茗溪会への要望など活発な発言があり懇談の成果をあげることができました。

「筑波大学新聞」4月号を同封します。

一昨年、昨年に引き続き「筑波大学新聞」4月号を今年も同封致します。4月号には筑波大学への新入生の情報に掲載されており、会員の皆様から好評をいただいております。その他、筑波大学の様子も詳しく掲載されておりますので、ご活用ください。

茗溪・筑波グラウンドフェスティバルのご案内

日時 平成27年6月13日（土）

13:00受付開始、13:30開会

会場 筑波大学学生会館（開会式、シンポジウム、懇親会）

平成27年度人事について

一般社団法人 茗溪会

理事長

江田 昌佑

副理事長（財務経営担当）

井口 武雄

副理事長（同窓会・大学対応担当）

西川 潔

常務理事（兼事務局長）

高野 力

事務局

大塚事務所

室岡 和彦（所長）

岩田 敏昭

和泉 千代

前田 三郎（非常勤）

清水 進一（非常勤）

高原 將（嘱託）

筑波事務所

立山 雅博（所長）

五木田喜男（非常勤）

大森 哲郎（非常勤）

平成26年度 秋の叙勲（追記）

瑞宝中綬章

木村 茂（40院修数）

埼玉

瑞宝中綬章

吉中龍之進（35教大地鉱）

埼玉

表紙の言葉ーデザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

つくば市の中心部およびキャンパスのあるあたりは、以前、桜村だった。そのせいか、市内には立派な桜並木があり、多数の研究所内にも桜を見ることが多い。

筑波大学も例外ではなく、沢山の桜が植えられている。特に南地区、病院から体育・芸術エリアにかけて多い。着任当初は若木だったものが40年近い年月を経て、幹にも陰影が刻まれ貫禄が出てきた。農林技術エリア（実験農園）には様々な種類の桜が並んでいる場所がある。

なかなか他では見られない。入学式にあわせるように満開となるが、副学長で学生担当の頃は、学生が酒盛りをして事故など起こさぬか、そんなことばかり考えていた。なお、桜の写真は小生にとって苦手である。どう写しても、もやもやした絵にしかならない。いきおい、接写が多くなるが、表紙の作品は間違いなく体芸エリア、天久保池の端で撮った桜である。

編集後記

・特集は教育学者清水一彦さんと考える「日本の教育」第3回として「現代社会はどのような教師を求めているか」をテーマに、藤田晃さんの司会で清水さんと筑波大学教授の徳永保さんに話していただきました。

また、特別寄稿として、筑波大学名誉教授の桑原敏明さんに「万人の学習権の生涯にわたる全面保証を未来永劫に」をご執筆いただきました。

・筑波大学で実施した熊倉功夫さんの公開講座「茶の湯にみる日本の生活文化」は、150人以上入れる大きな会議室を用意したにもかかわらず、希望者が殺到してお断りするほどの盛況でした。パワーポイントを活用されたお話はたいへんわかりやすく楽しいお話でした。

お願い

・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

平成27年4月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

Email info@mekeior.jp

URL http://www.mekeior.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇二四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・学生会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

Email tsu3inu@mekeior.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKI//SHO
Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学
大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の
支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本部／茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：上席執行役員秘書室長 岡本 俊一
〈昭和56年 第一学群 社会学類 卒業〉

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究科修了)

☆24時間営業

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます



IT'S A BIG WORLD. GO RUN IT.

ASICS.COM

～筑波大学発ベンチャー～

つくば

ウエルネスリサーチは

暮らすことで「健幸」になるまちづくり

スマートウエルネスシティ(SWC)構想を

進めています!

〒277-8519

柏市若柴178番地4 KOIL505

Tel: 04-7197-2360



予告

公開講座

① 東京地区

(その1)

日時: 6月20日(土) 茗溪会館

「英語になった日本語」

講師: 藤原保明先生

(その2)

日時: 11月14日(土) 茗溪会館

「茶の湯にみる日本の生活文化」

講師: 熊倉功夫先生

② つくば地区

共催 筑波大学 筑波学都資金財団

(その1)

日時: 9月26日(土)

筑波研修センター

「耳を澄まして聞く英院」

講師: 藤原保明先生

(その2)

日時: 7月18日(土)

筑波研修センター

「都市園芸」(仮題)

講師: 西川綾子先生

顕彰式

日時: 11月28日(土)

場所: 筑波大学学生会館

追悼のこころ

日時: 9月5日(土)

場所: 筑波大学特別会議室



株式会社 阿部兄弟建築事務所

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル
代表取締役 荒井 豊人 (昭和57年 建築士)
TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120



スキューバダイビングの「アセントツアー」

東京都知事登録旅行業3-3443号

東京都港区赤坂6-13-19-502 03-3560-3381

取締役社長 川上 雄笹 (昭和45年 農芸化学卒)

<http://ascent.co.jp/> kawakami@ascent.co.jp

経営・労務・年金etc. コンサルタント

福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3

TEL 03(3607)0551 FAX 03(3607)0551

所長 福岡 一雄 (32教大法政)
社会保険労務士

株東京科学光芸社

茗溪会館写真スタジオ

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
茗溪会館3階

TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392

聖徳大学 文学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬55

電話 047-365-1111(代表)

E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp

学部長 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)

相続・法人設立・ビザ etc...

行政書士 高谷真一事務所

〒300-0826 土浦市小松ヶ丘町3番15号
TEL&FAX 029-821-8177

代表 高谷 真一 (平20筑修ビジ)



株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋
URL <http://www.juwa.com> E-mail: travel@juwa.com
〒390-2451 茨城県つくばみらい市東輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

スポーツ選手、文化人のマネジメント&キャスティング
トレーニングジム、鍼灸整骨院、デイサービスの運営

株式会社 スポーツカンパニージャパン

〒590-0412 大阪府泉南郡熊取町紺屋2-21-17
TEL 072-452-0030 <http://tachiryugym.com>

代表取締役 藤田 文武 (筑波大体育 2004卒)
fujita@sportscompany.co.jp



永井建設株式会社

〒273-0115 千葉県鎌ヶ谷市東道野辺3-1-7
電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940

営業部長 高野 力 (昭48教大木工)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケエスアイ

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-1
東京フジビル502号室

TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)1578

執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

つくばでの宿泊・研修にー

ご家族で、お仲間で

最大収容180名、お一人3,700円から
茗溪会員とご家族に割引あり

研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
シングル145室ツイン5室和室5室/研修室2室(120・40名)
和室も研修室として利用可(20畳、10畳)
館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等(数名から80名まで)

アクセス

秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
●バス/「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車
徒歩8分●つくば駅からタクシー/5分

一般財団法人筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒308-0008 茨城県つくば市天久保1-13-5

TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail: center@meikei.or.jp



真面目に 結婚する。

“おもいやり”“おもてなし”、
世界に誇る日本の文化が若い人に静かに波及している今、
日本人の心を大切に、結婚へ誠実に向き合う方が増えています。

ご婚約カップル・ご両親、キュービッドスタッフの
直接の言葉。ホームページ“愛・ボード”にアクセス、
真実の声で信頼性を確認できます。

ご婚約

検索



キュービッドは慶應義塾大学OB会の親睦パーティから発足して35年。結婚を誠実にお考えの方限定の会員制クラブです。

■お問い合わせは電話でもどうぞ。

☎ 0120-0333-82



■入会資格

結婚を誠実にお考えの独身の方

●男性 25～45歳、定職におつきの方。●女性 20～40歳

※入会に際して審査があります。

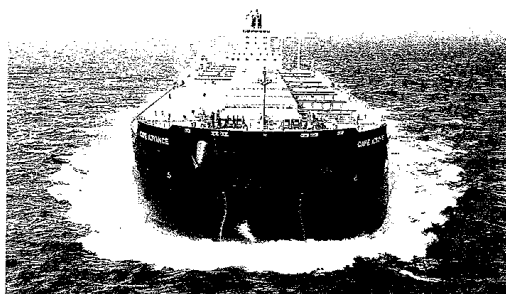


one by one サービスの会員制クラブ

Cupid Club

〒104-0061 東京都中央区銀座4-2-11ヒューリック銀座数寄屋橋ビル7F 03-5524-3555 公式ホームページ www.cupid.co.jp

Ships 21 Co., Ltd.
shipbrokers



外航大型貨物船・タンカー等の備船・売買の仲介
海運コンサルタント

世界中のマーケットと直結して日本のそして世界の
海運業に貢献すべく。 体力・気力があり、英語が
堪能な若い方、興味があったら来てどんな仕事が見
てみませんか。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス

TEL: 03-3438-2351 shipsuz@ships21.co.jp

代表: 鈴木 進 1973年東京教育大学理学部動物学教室卒

現: 筑波大学ラグビー部OB会、副会長



桜美林大学
J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
入試広報センター相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



新しい 生徒指導の手引き

四六判, 232ページ 本体1,800円+税

著者 ■ 諸富祥彦 (明治大学教授, 生徒指導提要の作成に関する協力者会議協力者)

- 発達促進的・予防的な生徒指導として「生徒指導プログラム」を提唱。
- 『生徒指導の手引』(昭和40年刊行・同56年改訂, 文部省) から『生徒指導提要』(平成22年, 文部科学省) に流れる共通点と, 新たに求められた改善点を実践的に解説。
- 教育カウンセリングやガイダンスカウンセリングを生かす生徒指導の充実とは?

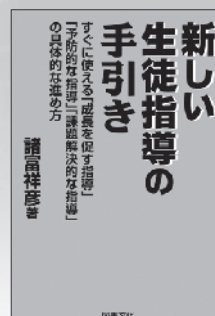
大好評! 諸富祥彦の著書

教師の悩みとメンタルヘルス 本体1,600円+税

教室に正義を! - いじめと闘う教師の13か条 - 本体1,400円+税

「7つの力」を育てるキャリア教育 - 小学校から中学・高校まで - 本体1,800円+税

自分を好きになる子を育てる先生 本体1,500円+税



〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519
※ 本体には別途消費税がかかります。

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

- ◆寮のある学校です
- ◆Study Skillsを評価し伸ばす学校です
- ◆海外大学進学も選択肢にできます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です



平成27年度公開行事

5月23日(土) オープン・キャンパス

6月 6日(土)・7日(日)

桐創祭(文化祭)

6月27日(土) 帰国生説明会

7月11日(土) 高校受験生対象

学園説明会



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp(見学等) entry@meikei.ac.jp(入試等)